

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 中島 三千男	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
概論 日本歴史		2000年 5月 1日 ～現在に至る	吉川弘文館. 佐々木潤之介、中島三千男他4人で編集(再掲)。最新の学問的成果にもとづき、コンパクトな日本史の概説を行い、大学の一般教養の概論テキストとしてや一般歴史愛好者の参考書ないしテキストとしても利用できるものとした。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
海外神社跡地の景観変 容ーさまざまな現在 (い ま)ー	単著	2013年 3月	(お茶の水書房)		
若者は無限の可能性を 持つー学長から学生へ のメッセージ	単著	2014年 2月	(御茶の水書房)		
論文					

Sinto Deities that Crossed the Sea;japan's Overseas Shrines”,1868to1945 (査読付)	単著	2010年 5月	Japanese Journal of Religious Studies [Nanzan Institute for Religion and culture] 37(1)		21-46頁
その他					
2009年度卒業式・学位授与式における学長式辞 (抄録)	単著	2010年 4月	『学園ニュースかながわ』第102号		
2010年度神奈川大学・神奈川大学大学院入学式における学長式辞 (抄録)	単著	2010年 4月	『学園ニュースかながわ』第102号、		
志願者減を食い止める/会員の皆様の引き続きの御支援を/学長挨拶	単著	2010年 4月	『宮陵一Kyu-Ryo』59号(59)		
アジア太平洋戦争をめぐる、日本人の三つの戦争観 カンザス大学		2010年 8月	(米国カンザス大学)		
新しい自治体シンクタンクをめざしてーシンクタンク神奈川・キックオフシンポジウム	共著	2011年 3月	『神奈川力∩大学力』(政策研究・大学連携センター～シンクタンク神奈川～)(No. 1)		36, 37, 42, 46, 47頁
講演 宮陵会札幌支部 アジア太平洋戦争をめぐる日本人の三つの戦争観		2011年 5月			
アジア太平洋戦争をめぐる日本人の三つの戦争観 国立台湾大学		2012年 5月	(国立台湾大学)		

アジア太平洋戦争をめぐる日本人の三つの戦争観 国立台湾師範大学客員 研究員プログラム		2012年 5月	(国立台湾師範大学)		
アジア太平洋戦争をめぐる日本人の三つの戦争観 国立成功大学		2012年 5月	(台湾国立成功大学)		
海外神社跡地の景観変容 国立台湾師範大学客員 研究員プログラム		2012年 5月	(国立台湾師範大学)		
アジア太平洋戦争をめぐる、日本人の三つの戦争観 清華大学		2012年 8月	(中国清華大学)		
講演 横浜日独協会 アジア太平洋戦争をめぐる日本人の三つ戦争観		2012年10月			
講演 横浜ロータリー クラブ アジア太平洋 戦争をめぐる日本人の 三つの戦争観		2012年12月			
編集長インタビュー 文化人編6 日本人は もっと身を慎み、中国 人はもっと寛容に		2013年 5月	人民日本海外版日本月刊		
講演 如水会横浜支部 総会 アジア太平洋戦 争をめぐる日本人の三 つの戦争観		2013年 6月			
講演 宮陵会三浦半島 支部総会 アジア太平 洋戦争をめぐる日本人 の三つの戦争観		2013年 6月			

新聞記事 「あの戦争」を知る-2 苦い記憶と複雑な現在 海外神社の跡地	2013年 8月	神奈川新聞社 2013年8月7日 9面 (文化)	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
年月	内容		
1965年 4月～現在に至る	史学研究会(国内学会)会員		
1965年 4月～現在に至る	日本史研究会(国内学会)会員		
1965年 4月～現在に至る	歴史学研究会(国内学会)会員		
1967年 4月～現在に至る	歴史科学協議会(国内学会)会員		
1968年 4月～現在に至る	個人研究 近代日本における国家と宗教、とくに国家神道		
1976年 5月～現在に至る	日本歴史学協会(国内学会)会員		
1976年 5月～現在に至る	日本歴史学協会(国内学会)学問思想の自由・建国記念の日問題特別委員会委員		
1978年10月～現在に至る	個人研究 大山崎荘(町) 地域史研究		
1983年 4月～現在に至る	個人研究 代替わり儀式の政治史的研究		
1984年 1月～現在に至る	神奈川地域史研究会(国内学会)会員		
1984年 1月～現在に至る	神奈川地域史研究会(国内学会)運営委員		
1990年 4月～現在に至る	個人研究 海外神社及びその跡地の研究		
1992年12月～現在に至る	日本近代仏教史研究会(国内学会)会員		
1992年12月～2011年 6月	日本近代仏教史研究会(国内学会)運営委員		
2003年 9月～現在に至る	日本歴史学協会(国内学会)歴史教育問題特別委員		
2007年 4月～2011年 3月	神奈川県私立大学連絡協議会 副会長		
2007年 6月～2011年 6月	神奈川県私立学校教育振興会 評議員		
2008年 4月～2013年 3月	財団法人 大学基準協会 評議員		
2010年 6月～2012年 6月	神奈川県日本中国友好協会 顧問		
2011年 4月～2013年 3月	神奈川県私立大学連絡協議会 会長		
2011年 6月～現在に至る	日本近代仏教史研究会(国内学会)評議員		
2011年 6月～2013年 5月	神奈川県私立学校教育振興会 理事		
2012年 6月～2013年 3月	神奈川県日本中国友好協会 副会長		
2013年 4月～現在に至る	神奈川県日本中国友好協会 名誉副会長		

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 尹 健次	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
授業改善の努力		2007年 4月 1日 ～現在に至る	授業では質疑応答を増やした。 また学期ごとにレポートを課すが、そのまえにレポートの書き方等を説明するようにした。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2007年 4月 1日 ～現在に至る	何回かの授業評価で、話しが難しいときがあるとの指摘を受けた。 そこで新聞のコピーなどを多用するとともに、平易な言葉づかい、概念 や言葉の説明に力を注いでいる。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1982年 4月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1983年 4月～現在に至る	朝鮮史研究会 会員
1983年 4月～現在に至る	朝鮮史研究会(国内学会)会員
1991年 4月～現在に至る	国際高麗学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 在日朝鮮人
2005年 4月～現在に至る	個人研究 日本近現代思想史, 朝鮮近現代思想史, 在日朝鮮人
2005年 4月～現在に至る	個人研究 韓国現代思想史

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 伊坂 青司	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
パワーポイントの活用		2006年 4月 1日 ～現在に至る	大人数の講義における学生の集中度向上や画像を使用する講義の必要性から、パワーポイントを活用することによって授業運営の改善を行っている。その効果については、学生による授業評価アンケートにも現れている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
共感と感応－人間学の 新たな地平－	共著	2011年 4月	(東北大学出版会)	栗原隆、佐藤透、座小田豊、加藤尚武、尾崎彰宏、伊坂青司等	313-337頁
世界の感覚と生の気分	共著	2012年 3月	(『世界の感覚と生の気分』(ナカニシヤ出版))		
論文					

シェリング哲学における「愛」のテーマ『人間的自由の本質』を中心に	単著	2011年 9月	『シェリング年報』 (こぶし書房) (11)		4-13頁
人間の悪と神の愛ーシェリング『人間的自由の本質』を中心にしてー	単著	2012年 9月	『東北哲学会年報』 (28)		123-135頁
風土論の哲学的系譜と日本ーグローバリゼーションの時代のなかでー	単著	2013年 9月	人文研究 (180)		1-36頁
シェリング芸術哲学における造形芸術ー彫刻と絵画の位置づけをめぐってー	単著	2014年10月	『思索』 (東北大学哲学研究会) (47)		49-68頁
ヘーゲル歴史哲学の原型と変容ー「世界史の哲学」初回講義 (1822/23年) を中心にー	単著	2014年10月	『思想』 (岩波書店) (1086)		133-157頁
その他					
翻訳『ハイデッガー全集第42巻 シェリング「人間的自由の本質について」』	共著	2011年12月	創文社	高山守、山根雄一郎、ゲオルグ・シュテンガー	

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	個人研究 生命倫理と環境倫理
	国内共同研究 生命倫理と自然哲学
1974年 4月～現在に至る	東北哲学会(国内学会)会員
1974年 4月～現在に至る	東北大学哲学研究会(国内学会)会員
1976年 4月～現在に至る	日本哲学会(国内学会)会員
1984年 4月～現在に至る	個人研究 ドイツ観念論とロマン主義に関する研究
1992年 5月～現在に至る	日本シェリング協会(国内学会)会員

1992年 5月～現在に至る	日本シェリング協会(国内学会)理事
1992年 7月～現在に至る	日本ヘルダー学会(国内学会)会員
1997年 4月～現在に至る	日本ヘルダー学会(国内学会)理事
1997年 4月～現在に至る	東北哲学会(国内学会)常任委員
2003年11月～現在に至る	社会思想史学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	日本生命倫理学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	日本ヘーゲル学会(国内学会)会員
2006年 4月～現在に至る	個人研究 愛の文化比較
2008年 4月～2011年 3月	科学研究費補助金 3,400,000円 「基盤研究(B)」西洋哲学との比較という視座から見た日本哲学の特徴およびその可能性について(研究分担者)
2009年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金 4,000,000円 「基盤研究(B)」空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究(研究分担者)
2011年 4月～現在に至る	機関内共同研究(神奈川大学人文学研究所)自然観の東西比較
2011年12月～現在に至る	科学研究費補助金 910,000円 「基盤研究(A)」共感から良心に亘る「共通感覚」の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究(研究分担者)
2012年 7月～現在に至る	日本シェリング協会(国内学会)会長
2012年10月～現在に至る	美学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 日高 昭二	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：日本文化論) (1)「教員に熱意を感じた」では、強くそう思うが3.8%、そう思うが69.2%であり、(2)「総合的な満足」では、強くそう思うが11.8%、そう思うが54.9%などの評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
文藝年鑑	共著	2012年 6月	(新潮社)		
文藝年鑑	共著	2013年 6月	(新潮社)		
夫婦善哉 完全版		2013年 8月	(雄松堂書店)		
安部公房 越境者 メディアの	共著	2013年12月	(森話社)		

日本近現代文学研究	共著	2014年 8月	(外語教学与研究出版 (北京))		
占領空間のなかの文学 痕跡・寓意・差異	単著	2015年 1月	(岩波書店)		
近代文学草稿・原稿研究 事典	共著	2015年 2月	(八木書店)		
論文					
大正期「挿絵入り小説」 の問題ー『真珠夫人』 その他	単著	2010年10月	『日本近代文学館年誌』 (6)		
通俗小説という問題	単著	2010年11月	『日本近代文学』 (83)		
通俗小説の修辞学ー久 米正雄『螢草』精読	単著	2011年12月	人文研究 (神奈川大学) (175)		
表象としての“光”ー 生田長江の戯曲「円光」 をめぐって	単著	2012年 3月	人文研究 (神奈川大学) (176)		
背負う馬の文学史ー軍 馬、異類、アンドロイ ド	単著	2014年 1月	隔月刊『文学』(岩波書 店) 15(1)		
その他					
ほろ酔い詩歌紀行ー甘 酒屋打出の浜	単著	2010年11月	『酒林』 (80)		
ほろ酔い詩歌紀行ー万 太郎の酒	単著	2011年 1月	『酒林』 (81)		
井上ひさしと文学史 『座談会昭和文学史』 を読む	単著	2011年 2月	『国文学 解釈と鑑賞』		
ほろ酔い詩歌紀行ー吉 井勇の酒	単著	2011年11月	『酒林』 (82)		
ほろ酔い詩歌紀行ー鉄 幹の酒	単著	2012年 1月	『酒林』 (83)		
北をめざす人々		2012年 7月	読売ホール		

ほろ酔い詩歌紀行一田村隆一の酒	単著	2012年11月	『酒林』(84)		
ほろ酔い詩歌紀行一酒葉立てたる門	単著	2013年 1月	『酒林』(85)		
ほろ酔い詩歌紀行一白秋「九十九島」	単著	2013年11月	『酒林』(86)		
ほろ酔い詩歌紀行一杜甫の酒歌	単著	2014年 1月	『酒林』(87)		
資料は語る一小樽の坂道一小林多喜二と伊藤整		2014年 5月			
書評・浅野麗著『喪の領域 中上健次・作品研究』	単著	2014年11月	日本近代文学(日本近代文学会) 91集		
ほろ酔い詩歌紀行一俵万智の酒	単著	2015年 1月	酒林(西野金陵株式会社)(89号)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	その他 日本近代文学
1970年 4月～現在に至る	日本近代文学会(国内学会)会員
1970年 4月～現在に至る	早稲田大学国文学会(国内学会)会員
1989年 4月～現在に至る	昭和文学会(国内学会)会員
1989年12月～現在に至る	日本近代文学会(国内学会)評議員
1993年 4月～現在に至る	昭和文学会(国内学会)幹事
1995年 4月～現在に至る	日本文学協会 会員
1997年 4月～現在に至る	日本文芸家協会 会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 メロドラマ的想像力
2005年 4月～現在に至る	個人研究 都市・資本・映像
2005年 4月～現在に至る	早稲田大学国文学会(国内学会)理事
2008年 3月～現在に至る	昭和文学会 常任幹事
2010年 4月～現在に至る	日本近代文学会 常任理事
2010年 6月～2012年 6月	昭和文学会 代表幹事
2011年 3月～2014年 9月	学校法人神奈川大学理事 理事
2012年 4月～2014年 3月	日本近代文学会 代表理事
2012年 4月～2013年 3月	早稲田大学大学院文学研究科 非常勤講師
2012年 7月～現在に至る	市川市文学館検討委員会委員 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 鳥越 輝昭	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生に発見の驚きを強めさせる授業		2008年 9月30日 ～現在に至る	(授業科目：国際文化論V) 重要な小トピックごとに、履修者に自分の現在までの認識を確認させるクイズに答えさせてから、教授内容を提示している。教授内容を知る前の(常識的)認識と教授内容との差違をはっきり認識させ、新しい知識を得る驚きを体験させている。おもしろい、という感想を述べる学生が少なくない。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート		2008年 7月 ～現在に至る	(授業科目：翻訳論) 話し方は明確でひきつけた、質問・意見に配慮した、総合的に満足、という3項目で外国語学部英文学科の科目平均を大きく上回った。当該科目の評価と平均値(括弧内の数値)は各項目につき4.2(3.7)、4.4(3.8)、4.3(3.7)である。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
外国語学部国際文化交流学科の自己点検評価委員として活動		2008年 3月 1日 ～現在に至る	自己点検評価を求められた各項目について、学科会議で検討する際の議長を務め、報告書を作成した。		
外国語学部国際文化交流学科の新カリキュラム検討委員会座長として活動		2008年 6月 1日 ～現在に至る	国際文化交流学科の現行カリキュラムの問題点を洗い出し修正を加えるための原案作成に携わった。その際、担当教員達による問題点の指摘をくみ上げるだけでなく、第一期生全員に対してカリキュラムに関するアンケートを実施し、その意見を生かすことを心がけた。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

表象のヴェネツィア— 詩と美と悪魔	単著	2012年11月	(春風社)		385, xii p頁
論文					
「ためいきの橋」の出現と正義の国ヴェネツィア像の転倒——バイロンの変えた表象	単著	2010年 9月	『人文研究』（神奈川県文学会） （第171号）		
『マリーノ・ファリエーロ』と『ヴェネツィアの一晩』のなかのヴェネツィア貴族政不信	単著	2010年12月	『人文学研究所報』（神奈川県文学会） （44）		1-18頁
魔界としてのヴェネツィア—『夏の嵐』と『ヴェニスに死す』再読	単著	2010年12月	『人文研究』（神奈川県文学会） （172）		37-69頁
『旅情』と『カッコーの季節』—異文化交流の不可能な場としてのヴェネツィア	単著	2011年 3月	神奈川県文学会『人文研究』 第173集		47-78頁
レニエ『顔合わせ』とヴェネツィア—二面性の統合と鏡の照応	単著	2011年 9月	『人文研究』（神奈川県文学会） （第174号）		1-29頁
『ホフマン物語』のなかのヴェネツィア—悪魔と鏡	単著	2011年10月	『人文学研究所報』（神奈川県文学会） （第46号）		19-33頁
ホイッスラーとヴェネツィア—小運河と裏町の詩情	単著	2011年11月	『人文研究』（神奈川県文学会） 第175集		49-82頁
〈死の町〉ヴェネツィア—「死の渦」と〈ゴンドラ=棺〉	単著	2012年 3月	『人文研究』（神奈川県文学会） 第176集		1-29頁
『ローマの休日』（？）とバイロン	単著	2012年12月	『人文研究』（神奈川県文学会） 第178集		
『愛の泉』とその原作（？）のなかのローマ	単著	2013年 9月	『人文研究』（神奈川県文学会） 第180集		37-73頁

『ローマの哀愁』に無い〈ローマ〉と在る〈ローマ〉	単著	2013年12月	『人文研究』（神奈川県大学人文学会） 181集		1-35頁
『ローマの女』のローマ性	単著	2014年 3月	『人文研究』（神奈川県大学人文学会） 第182集		23-61頁
「ヴィットリアーノ」の外と内-ヴィットリオ・エマヌエーレ2世 国立記念堂に見る〈ローマ〉	単著	2014年12月	『人文研究』（神奈川県大学人文学会） 184		1-32頁
その他					
研究発表：〈蝶々夫人〉物語のなかの内なる反オリエンタリズム	単著	2010年 9月			
わたくしの研究のことなどー自己紹介を兼ねて	単著	2011年 7月	『非文字資料研究』（神奈川県大学非文字資料研究センター） (No. 26)		
書評『聖書に由来する英語慣用句の辞典』（小野経男著）	単著	2011年12月	『英語教育』（大修館書店） 60(10)		91-92頁
書評『近代詩の誕生—軍歌と恋歌』（尼ヶ崎彬著）	単著	2012年 5月	『漢文教室』（大修館書店） (第198号)		p. 40頁
『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂共同研究（研究調査研究報告）「ポーリエーのジョーリ」	単著	2013年 1月	『非文字資料研究 Newletter』 (29)		18-19頁
自著を語る70『表象のヴェネツィア—詩と美と悪魔』	単著	2013年12月	『地中海学会月報』（地中海学会） (365)		7頁

「隠し味」のシャープ レス	単著	2014年 1月	ジャコモ・プッチーニ『 蝶々夫人』（新国立劇場 ）		32-34頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1979年 4月～現在に至る		上智大学英文学会(国内学会)会員			
1979年 4月～現在に至る		日本英文学会(国内学会)会員			
1980年 4月～現在に至る		ルネッサンス研究所 会員			
1986年10月～現在に至る		日伊協会 会員			
1988年 6月～現在に至る		International Comparative Literature Association 会員			
1988年 6月～現在に至る		日本比較文学会(国内学会)会員			
1989年 4月～現在に至る		個人研究 都市ヴェネツィアをめぐる表象史			
1996年 4月～現在に至る		地中海学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 オペラ・大衆音楽の表象分析			
2009年 7月～2010年 9月		川崎市総務局公の施設管理運営調整委員会 委員			
2010年 9月～現在に至る		川崎市総務局民間活用推進委員会 委員			
2011年 4月～現在に至る		機関内共同研究 (神奈川県非文字資料研究センター)ヨーロッパ生活絵引編纂			
2011年10月～現在に至る		機関内共同研究 (神奈川県文学研究所)近代都市の表象			
2012年 4月～現在に至る		個人研究 都市ローマをめぐる表象史			
2013年 4月～2015年 3月		科学研究費補助金 2,470,000円 「挑戦的萌芽研究」都市ローマをめぐる18-20世紀英仏独伊語圏における表象史 (研究代表者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 堤 正典	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
ロシア語履修者のための懇談会の開催		2000年12月19日 ～現在に至る	ロシア語を履修する学生のロシア及び関連地域に関する知識を深めるためにロシア等の関係者を招いて「ロシア言語文化懇談会」を年数回開催している。(平成12年12月19日～)		
2 作成した教科書、教材					
『21世紀のロシア語』(大学書林)		2003年 4月 1日 ～現在に至る			
「現代ロシア語の諸相」(PowerPointによる)		2005年 5月14日 ～現在に至る	予備知識を持たない人を対象としたロシア語についての概説。PowerPointによりプレゼンテーションするために作成した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年度前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：外国語科目ロシア語初級A/初級B/中級A/上級B/上級C)すべての科目で総合満足度について4.0～4.7の得点を得るなど、ほぼすべての項目で高評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
外国語科目教育協議会委員および運営委員としての活動		1996年 6月 7日 ～現在に至る	本学横浜キャンパスにおける外国語科目教育の充実と円滑な運営を行うため、その計画・立案等を行ってきた。(平成8年6月7日～平成15年3月31日、平成16年4月1日～)		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ロシア語学と言語教育 III	共著	2011年 3月	(神奈川大学ユーラシア 研究センター)	堤正典、小林潔、他	

発話と文のモダリティ —対照研究の視点から	共著	2011年 3月	(ひつじ書房)	武内道子、佐藤裕美、堤正典他	
モダリティと言語教育	共著	2012年 3月	(ひつじ書房)	富谷玲子、堤正典、他	
グローバリズムに伴う 社会変容と言語政策	共著	2014年 3月	(ひつじ書房)	富谷玲子、彭国躍、堤正典	
論文					
なし					
その他					
ロシア語教材を見直す —非専攻課程習得基 準の策定を念頭に—	共著	2010年10月	ロシア・東欧学会/ JSSEES2010年度合同研究 大会	小林潔 堤正典	
非専攻課程ロシア語教 育を考える —習得基 準・言語政策・IT—	共著	2010年11月	日本ロシア文学会第60回 全国大会	堤正典、小林潔	
ヘルシンキでのロシア 語	単著	2011年11月	『ユーラシア研究』(ユ ーラシア研究所・編+東 洋書店) (第45号)		44-45頁
神奈川大学でのロシア 語教育と検定試験	単著	2012年 3月	2011年度科研成果報告書 「大学間、高等学校—大 学間ロシア語教育ネット ワークの確立」		61-62頁
語学留学の話	単著	2012年 5月	『ユーラシア研究』(ユ ーラシア研究所・編+東 洋書店) (第46号)		54-56頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	個人研究 ロシア語アスペクト研究				
1984年 5月～現在に至る	日本ロシア文学会(国内学会)会員				

1985年 4月～現在に至る	岩崎研究会(国内学会)会員
1990年 5月～現在に至る	日本音声学会(国内学会)会員
1990年 6月～現在に至る	日本言語学会(国内学会)会員
1995年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (神奈川県立文学部共同研究グループ)文化のかたち
1995年10月～現在に至る	JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies日本スラブ東欧学会)(国内学会)会員
1995年10月～現在に至る	ロシア・東欧学会会員
2000年 4月～現在に至る	日本西スラヴ学研究会(国内学会)会員
2001年 3月～現在に至る	アメリカ言語学会 (Linguistic Society of America)会員
2001年 4月～現在に至る	JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies日本スラブ東欧学会)(国内学会)理事
2001年10月～2013年10月	日本ロシア文学会(国内学会)関東支部運営委員
2005年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (神奈川県立言語研究センター共同研究グループ)言語の普遍性と個別性 ―文法論と語用論との接点現象
2006年 7月～2012年 9月	日本ロシア文学会(国内学会)ロシア語教育委員
2007年 5月～2013年 5月	JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies日本スラブ東欧学会)(国内学会)編集委員
2008年 4月～2011年 3月	機関内共同研究 (神奈川県立共同研究奨励金)統語論的および御用的アプローチによるモダリティの対照研究
2008年 4月～2011年 3月	機関内共同研究 (神奈川県立言語研究センター共同研究グループ)ロシア語習得基準の研究 ―新しいロシア語習得基準策定のための諸問題の検討
2008年 4月～2011年 3月	科学研究費補助金 340,000円 「基盤研究(C)」非専攻課程のための新しいロシア語習得基準と教育内容に関する総合的研究(研究代表者)
2009年 4月～2012年 3月	機関内共同研究 (神奈川県立共同研究奨励助成金)グローバリズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究 ―東アジア環日本海地域を対象として―
2011年 4月～2012年 3月	機関内共同研究 (神奈川県立言語研究センター共同研究グループ)ロシア語学習・教育におけるレアリアの内容と位置づけに関する研究
2011年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 4,940,000円 「基盤研究(C)」習得基準と自律学習の観点に立脚した非専攻課程ロシア語教育文法とプロフィールの構築(研究代表者)
2011年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 585,000円 「基盤研究(B)」大学間、高等学校―大学間ロシア語教育ネットワークの確立(研究分担者)
2012年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (神奈川県立言語研究センター共同研究グループ)外国語学習・教育におけるレアリアの内容と位置づけに関する研究

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前田 マーガレット	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用	2007年 4月 ～現在に至る	(Phonetics) I used to use a textbook as the basis for my course, but I have expanded on the textbook and created my own materials, adapted to the students' needs, with phonetic terms provided in both English and Japanese.	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2007年 4月 ～現在に至る	(All classes - Teaching materials) I make nearly all my teaching materials myself and give them in the form of printed handouts to all the students.	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2007年 4月 ～現在に至る	(All classes - Homework assignments) Last year (平成19年) the students said the amount of time they had to spend for preparation and review for my class was a little lower than average. I have stepped up the amount of preparation and review that I make them do.	
思考レベルの授業参加	2008年 4月 ～現在に至る	(Seminar - British and American Intercultural Studies) The students do presentations on the topics we study in class using materials from newspapers, books and the Internet. In addition, I introduce them to cultural differences which we are not usually conscious of, such as use of space, called "Hidden Culture" by the well-known writer on Culture, E.T. Hall.	
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			

なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「韓国語話者による日本語倒置文のイントネーション」上昇の形式とその習得段階をめぐって	共著		(国立国語研究所)		
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 英語録音教材の韻律的特徴			
1988年 4月～現在に至る		全国語学教育学会(国内学会)会員			
1994年 3月～現在に至る		東京音声言語研究会			
1995年 4月～現在に至る		日本音声学会(国内学会)会員			
1996年 4月～現在に至る		科学研究費補助金 「創成的基礎研究費」国際社会における日本語についての総合的研究(研究分担者)			
1997年 4月～現在に至る		音声言語研究チーム「音声言語の韻律特徴に関する実験的研究」(代表鮎澤孝子) EXPERIMENTAL STUDIES ON PROSODY (ESOP)			
1999年 8月～現在に至る		日本音響学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 社会言語学：英語の呼びかけ体系			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 西野 清治	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
フランス語初級クラスにおける聞き取り			フランス語初級クラスにおいて、毎課ごとに聞き取り練習を行った。音節の区切り、強さアクセントの位置を確認して、フランス語のリズムに慣れることを目指した。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年度前期授業評価アンケート結果			どの科目でも、難易レベルでの評価が低かった。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			

	個人研究 同一指示
1989年 9月～現在に至る	日本フランス語学会(国内学会)会員
1999年 1月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 統語論・意味論

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 デビッド・アリン	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
L2 learners' orientation to multimodal activities in peer activities	共著	2010年	(The Japan Association for Language Teaching)	Yuri Hosoda, David Aline	39-54頁
Teacher deployment of applause in interactional assessments of L2 learners	共著	2010年	(Pragmatics and Language Learning) 12	Yuri Hosoda, David Aline	255-276頁
論文					

Learning to be a teacher: Development of EFL teacher trainee interactional practices	共著	2010年	JALT Journal 32	Yuri Hosoda, David Aline	119-147頁
Positions and actions of classroom-specific applause	共著	2010年	Pragmatics 20	Yuri Hosoda, David Aline	133-148頁
Doing being interrupted by noise as a resource in second language interaction (査読付)	共著	2012年	Journal of Pragmatics 44	Yuri Hosoda, David Aline	54-70頁
Social identities in second language talk: A conversation analytic research perspective. (査読付)	共著	2012年	Conference proceedings of the international conference: Innovative research in a changing and challenging world	David Aline, Yuri Hosoda	155-198頁
Social identities in second language talk: A conversation analytic research perspective (査読付)	共著	2012年	In S. Fan, T. Le, Q. Le, & Y. Yue (Eds.), Conference proceedings of the international conference: Innovative research in a changing and challenging world	David Aline, Yuri Hosoda	185-198頁
Two preferences in question-answer sequences in language classroom context	共著	2013年	Classroom Discourse 4	Yuri Hosoda, David Aline	63-88頁
その他					

Assisting peers: Preference for selected speaker response in language classrooms	共著	2010年 6月	Japan Society for Language Sciences		
Development of teacher trainee assessments in the classroom	単著	2010年 7月	Pragmatics and Language Learning Conference		
Doing being interrupted by "noise" in peer discussion	共著	2010年 7月	International Conference on Conversation Analysis		
Persistent preference for selected student response in educational settings	共著	2011年 7月	International Pragmatics Conference		
Realization of membership categories in multi-party interaction in an educational setting	共著	2011年 7月	International Pragmatics Conference		
Relevance of various social identities in multi-party interaction in an educational context	共著	2011年 7月	International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis Conference		
Two preferences in question-answer sequence in an educational context	共著	2011年 7月	International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis Conference		

Multimodal orientation in second language interaction	共著	2012年 2月	Invited colloquia, Department of Linguistics, University of Essex		
Social identities in second language talk: A conversation analytic research perspective	共著	2012年 5月	International Conference (Australian Multicultural Interaction Institute)		
Workshop on applying conversation analysis to language learning contexts	共著	2012年 6月	The Japan Association for Language Teaching		
Attributing to being a second language speaker during conflict talk in a peer discussion	共著	2012年10月	Applied Linguistics Association of Korea		
Self-produced noise as a further resource for delaying the next item due	共著	2012年10月	Applied Linguistics Association of Korea		
"I have a question": Single episode analysis of second language conflict talk	共著	2013年 5月	Annual Conference on Language, Interaction, and Social Organization		
Learning to use space and objects in language classrooms: A longitudinal study of teacher trainee interactional practice	共著	2013年 5月	LISO Seminar, University of California		

Longitudinal change in teacher trainees' deployment of spatial positioning	共著	2013年10月	Language and Social Interaction Working Group (LANSI)		
Deploying self-produced noise as a resource for delaying the next item due	共著	2014年 6月	International Conference on Conversation Analysis		
Development of teacher trainee embodied interactional practice in language classrooms	共著	2014年 6月	International Conference on Conversation Analysis		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1994年 9月～現在に至る		大学英語教育学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 大学教室における談話の分析			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 語学テストのアイテム分析			
2008年 4月～2011年 3月		国内共同研究 (日本学術振興会)3,780,000円 小学校英語活動の長期に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程			
2008年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金 3,780,000円 「基盤研究C」 小学校英語活動の長期に渡る観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程 (研究分担者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 岩本 典子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
神奈川大学横浜キャンパス外国語科目教育部会副部長		2013年 4月 1日 ～現在に至る			
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
外国語学研究科英語英文学専攻 入試作問委員		2007年 4月 1日 ～現在に至る			
大学院外国語学研究科英語英文学専攻 カリキュラム委員		2008年 4月 1日 ～現在に至る			
外国語学部国際文化交流学科英語分科会 運営委員		2010年 4月 1日 ～現在に至る			
大学院外国語研究科英語英文学専攻 予算委員		2010年 4月 1日 ～現在に至る			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					

Modality and point of view in media discourse (査読付)	単著	2010年 8月	英語学論説資料 第42号 (2008年分) (42-1)	784-797頁
観念構成的比喻について (査読付)	単著	2011年 8月	第1分冊 英語学論説資料 第43号 (2009年分) (43)	354-364頁
英字新聞を使った授業 : サッカー・ワールド・カップ (FIFA World Cup) の記事を中心として (査読付)	単著	2015年 3月	神奈川大学言語研究(神奈川大学言語センター) 37	77-104頁
その他				
「大学教育学会第36回大会」報告	単著	2014年12月	複眼(神奈川大学横浜キャンパス外国語科目教育部会) (23)	6-7頁
英語の歌を使った授業 : リスニングを中心とした総合英語学習	単独	2015年 2月	外国語科目教育部会主催ワークショップ 「外国語科目教育を学び合うIV」	

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	個人研究 スピーチ・アクト理論とその応用
	個人研究 日英の丁寧表現の比較研究
	個人研究 第二次大戦下における日英の新聞の言語・文体・ディスコース研究
1994年 4月～現在に至る	大学英語教育学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	日本語学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	英国応用言語学会 (British Association for Applied Linguistics) (国際学会)会員
1995年 7月～現在に至る	日本機能言語学会(国内学会)会員
2005年 9月～現在に至る	日本語用論学会(国内学会)会員
2010年 8月～2010年 9月	名古屋学院大学 大学院 外国語学研究科 博士学位論文 論文審査委員 (外部審査委員) 博士学位論文 論文審査委員 (外部審査委員)
2013年10月～2013年10月	日本機能言語学会第21回秋期大会 開催校委員/ 学会招致責任者

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 イトン フレデリック チャーチル	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
ゼミ生に対する論文指導		2004年 ～現在に至る	3年生にはゼミ論文、4年生には卒業論文の指導を行っている。		
「英語分野A-Advanced Reading」の教材作成		2014年 1月 ～2015年 1月	前期の科目「英語分野A-Advanced Reading」のシラバスを作成し、教科書を選び、教材を作成した。		
「専門演習 I I」の教材見直しおよび作成		2014年 3月 ～2015年 1月	通年の科目「専門演習 I I」の教材さらに発展し、毎回配布した。		
「英語表現A」と「英語表現B」の目的や内容を見直し新しいシラバス作成		2014年10月 ～2015年 1月	英語表現A・Bである必修科目の共通教材を選び、内容と目的をさらに具体的に決めた。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
英語部会入試作問委員会における活動		2002年 4月 1日 ～現在に至る	(～現在) 英語の入試問題に関するテキストの選択、問題の作成編集などを行った。またリスニングの問題の録音に参加した。		
言語センター共同研究		2002年 4月 1日 ～現在に至る	2003年度のリスニング試験問題、及び後期英語試験問題の項目分析を行い、その結果を英語試験作成委員会に報告。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					

論文					
Symbiotic gesture and the sociocognitive visibility of grammar in second language acquisition (査読付)	共著	2010年 6月	The Modern Language Journal 94(2)	Eton Churchill, Takako Nishino, Hanako Okada, Dwight Atkinson	234-253頁
その他					
Coordinated enactments and imported action in skill learning	単独	2012年 1月	(Los Angeles, California)		
Molding touch: The metamorphosis of clay, hands, and minds.	単独	2012年11月	American Anthropological Association 2012 Annual Meeting (San Francisco, CA USA)		
Between bodies and vessels: Transcending the transmission of skills at the potter's wheel	単独	2013年 6月	Transform, transfigure, transcend: Translation in cultural studies - the 3rd international symposium on comparative culture. (Yokohama, Japan)		
Skill learning at the potter's wheel	単独	2013年11月	(Hokkaido, Japan)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1993年 6月～現在に至る		Japan Association for Language Teaching(国内学会)会員			
1999年11月～現在に至る		アメリカ言語学会(American Association of Applied Linguistics)(国内学会)会員			
2003年 9月～現在に至る		JALT Journal(全国語学教育学会機関誌) 査読委員			

2005年 4月～現在に至る	Japan Association for Language Teaching(国内学会)Editorial Board of JALT Journal
2005年12月～現在に至る	The Modern Language Journal 査読委員
2010年 1月～現在に至る	Japanese Language and Literature 査読委員
2012年 3月～2013年 3月	American Anthropological Association(国際学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 尹 亭仁	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
写真などの視聴覚資料の活用		2007年 4月 ～現在に至る	朝鮮語の会話の授業では、日常関連の多くの写真を取り入れ、日本語を介しての朝鮮語ではなく、すぐ朝鮮語で答えるように働きかけている。		
朝鮮語の会話能力の向上		2008年 4月 ～現在に至る	朝鮮語の会話能力の向上のため、CD教材を作成し、いつでも会話の練習ができるようにした。		
2 作成した教科書、教材					
朝鮮語の会話の教材の作成		2006年 4月 ～現在に至る	ワン・フレーズ・コリアン1		
朝鮮語の会話用辞書の出版		2008年 3月 ～現在に至る	デイリー韓日英会話辞書 (三省堂)		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 ～現在に至る	主に朝鮮語の会話の授業を担当していて、毎回全員の学生と会話ができるように心掛けている。そのために、履修生の名前を全部覚えて、授業中いつでも学生に質問できるような授業を展開している。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
デイリーコンサイズ韓 日・日韓辞典[中型版]	単著	2010年 5月	(三省堂)		
論文					

日本における韓国語テキストについて —大学での教材を中心に— (査読付)	共著	2011年 3月	『神奈川大学言語研究』 (神奈川大学言語研究センター) (34)	永原歩・尹亭仁	95-133頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1998年10月～現在に至る		朝鮮語研究会 会員			
2000年 4月～現在に至る		朝鮮学会(国内学会)会員			
2000年 7月～現在に至る		韓国日本学会(国内学会)会員			
2000年10月～現在に至る		日本語教育学会(国内学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		国語学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 韓国語と日本語のヴォイスに関する対照研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前川 理子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
思考レベルでの授業参加		2000年 4月 1日 ～現在に至る	授業内容に関する質問、視聴覚教材から読みとった内容等を所定用紙に記入させ、これをもとに次回の授業を進めていく双方向型の授業に努めた。(平成12年4月1日～)		
演習授業の成果報告書の編集		2000年 4月 1日 ～現在に至る	演習形式の授業で学生が発表、議論した成果を小論文にまとめさせ、それを印刷した。(平成12年4月1日～)		
2 作成した教科書、教材					
国際文化交流学科基礎演習報告集 (2006年度)		2007年 1月 ～現在に至る			
国際文化交流学科基礎演習報告集 (2007年度)		2008年 1月 ～現在に至る			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
基本科目教育協議会運営委員としての活動		2003年 4月 1日 ～現在に至る	とりわけ留学生教育、履修者制限に関する問題を検討した。他大学の視察訪問も行った。(平成15年4月1日～)		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
宗教学事典 (査読付)	共著	2010年10月	(『宗教学事典』(丸善株式会社))	星野英紀他編	

近代日本の宗教学思想と国家—「新宗教」理想と国民教育の交錯—(査読付)	単著	2013年 9月	(博士論文 (東京大学))		
論文					
加藤玄智の神道論—宗教学の理想と天皇教のあいだで—(1)	単著	2011年10月	人文学研究所報 (神奈川県人文学研究所) (46)		85-100頁
加藤玄智の神道論—宗教学の理想と天皇教のあいだで—(2)	単著	2012年 3月	人文学研究所報 (神奈川県人文学研究所) (47)		85-97頁
その他					
国際文化交流学科基礎演習報告集 (2013年度)		2014年 1月			
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1993年 6月～現在に至る		日本宗教学会(国内学会)会員			
1995年～現在に至る		「宗教と社会」学会(国内学会)会員			
1997年10月～現在に至る		国際コミュニケーション学会(国内学会)会員			
1999年11月～現在に至る		宗教情報リサーチセンター主催の学術シンポジウム「インターネット時代の宗教」準備・運営 研究員			
2001年 3月～現在に至る		(財)国際宗教研究所主催の学術シンポジウム「生命操作はどこまで許されるのか？」準備・運営 研究員			
2001年11月～現在に至る		(財)国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター共催の学術シンポジウム「イスラエル原理主義」とその背景」準備・運営 研究員			
2002年 6月～現在に至る		Society for the Scientific Study of Religion 会員			
2003年 1月～現在に至る		(財)国際宗教研究所主催の学術シンポジウム「新しい追悼施設は必要か」準備・運営 研究員			
2003年 6月～現在に至る		高校生向け公開講座「いのちの選別はどこまで許されるか」講演 講師			
2004年10月～現在に至る		KU公開講座「生と死を考える—生命倫理と宗教の視点から」講演 講師			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 宗教と教育・倫理思想			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 宗教学の思想史			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 宗教運動論			
2005年11月～現在に至る		KU公開講座「イスラームを知る—ムスリムとの対話」講演 講師			
2006年 4月～現在に至る		「宗教と社会」学会の各種活動 常任委員			
2007年11月～現在に至る		高校生向け公開講座「異文化交流と宗教」講演 講師			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 前田 禎彦	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
古文書の語る時代と社会(69)永禄元年(1588)10月吉日夏年貢等注文	単著	2013年 3月	神奈川大学評論(74)	神奈川大学日本常民文化研究所が所蔵する二神司郎家文書から「」	180-181頁
貴族の私生活を垣間見る『春記』	単著	2013年10月	週刊 日本の歴史 平安時代4(朝日新聞出版)(16)		28-29頁
その他					

神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「平安人物伝ー9世紀」1～5	単独	2010年 5月	神奈川大学生涯学習・エクステンション講座(KUポータスクエア)		
神奈川大学附属中学3年生対象特別授業「大和を歩く・考える」	単独	2010年11月	神奈川大学附属中学3年生対象特別授業(神奈川大学横浜キャンパス)		
かねさは歴史の会「武士と平安京社会」	単独	2010年12月	かねさわ歴史の会(能見台地区センター)		
神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「平安人物伝ー10世紀」1～5	単独	2011年 5月	神奈川大学生涯学習・エクステンション講座(KUポータスクエア)		
神奈川大学附属中学3年生対象特別授業「大和を歩く・考える」	単独	2011年11月	神奈川大学附属中学3年生対象特別授業(神奈川大学横浜キャンパス)		
神奈川大学生涯学習・エクステンション講座「平安人物伝ー11世紀」1～5	単独	2012年 5月	神奈川大学生涯学習・エクステンション講座(KUポータスクエア)		
神奈川大学附属中学3年生対象特別授業「大和を歩く・考える」	単独	2012年11月	神奈川大学附属中学3年生対象特別授業(神奈川大学横浜キャンパス)		
神奈川大学附属中学3年生対象特別授業「大和を歩く・考える」	単独	2013年 7月	神奈川大学附属中学3年生対象特別授業(神奈川大学附属中学校)		
神奈川大学附属中学3年生対象特別授業「京都の今・昔」	単独	2014年 7月	神奈川大学附属中学3年生対象特別授業(神奈川大学附属中学校)		
神奈川大学生涯学習エクステンション講座「平安人物伝ー11世紀」1～5	単独	2014年11月	神奈川大学生涯学習エクステンション講座(KUポータスクエア)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1986年 4月～現在に至る		京都民科歴史部会(国内学会)会員			

1986年 4月～現在に至る	史学研究会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本史研究会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	古代学協会(国内学会)会員
2003年 5月～現在に至る	史学会(国内学会)会員
2004年11月～現在に至る	続日本紀研究会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 平安時代における法・裁判・刑罰
2006年 4月～現在に至る	歴史学研究会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 岩畑 貴弘	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
授業改善について		2003年 4月 1日 ～現在に至る	<p>教育においては、私は本学においてこれまで英語学習のための授業および言語学関連の授業を受け持ってきた。これまでに教えた学生は、必ずしも皆が英語の習熟度が高いとは言えないが、学習意欲が旺盛な学生がほとんどで、かつ素直であったため、授業方法についてもいろいろと試す機会があった。自分なりに工夫して行っている実践は数限りないが、まとめていうと、1) なるべく学生の発言の機会を増やすこと、2) ただし、ただ発言させるだけではその場の思いつきや適当な英文の作成になりがちなため、発言の前には準備の時間を設けること、3) 準備は一人でさせると緩慢になりがちなため、数人のグループでさせること、などである。この方法を違った内容の授業で行っている。</p> <p>このほかにも、クラスごとの学生の違いなどに対応し、臨機応変に小テストを追加したり、口頭テストに切り替えたり、ディスカッションや映像などを取り混ぜている。</p>
2 作成した教科書、教材			
教科書ならびに一般英語学習書の作成		2002年 9月 1日 ～現在に至る	<p>1) 自分なりにより良いものを目指して英語教科書の作成を行っている。現在までに2冊作成。</p> <p>2) 大学で培ってきたものを社会に還元すべく、一般の書店で手に入る英語学習書の作成も行っている。現在までに3冊作成。うち2冊は台湾で翻訳版も出版されている。</p> <p>*書名などは「教育研究業績」を参照</p>
3 教育上の能力に関する大学等の評価			

授業評価アンケート結果について	2003年 9月 1日 ～現在に至る	神奈川大学において隔年で実施される「授業評価アンケート」の結果については常に注視し、前任校や非常勤校における同様のアンケートとともにファイルし、授業改善のための資料の一部としている。結果については個々のクラスの特性もあり、多少の差はあるが、満足度を尋ねる質問（神奈川大学においては「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思われますか」という質問）において「強く思う」と「そう思う」の回答をあわせると、どの授業においてもほぼ8割から9割程度以上の学生が満足しているとみられる。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
「情報のなわ張り理論」再考	単著	2010年12月	『神奈川大学人文研究』 第172集		
英語と日本語の構文選択における差異について	単著	2011年12月	『神奈川大学人文研究』 第175集		
その他					
「インプット」という学び方	単著	2011年12月	学問への誘い(学校法人 神奈川大学広報委員会)		
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1998年～現在に至る	日本英語学会(国内学会)会員				
1998年～現在に至る	日本言語学会(国内学会)会員				
2001年～現在に至る	日本語用論学会(国内学会)会員				

2003年～2013年	個人研究 「情報のなわ張り理論」 についての研究
2004年 4月～現在に至る	アメリカ言語学会(国際学会)会員
2005年～現在に至る	個人研究 多言語間の比較表現研究
2013年～現在に至る	個人研究 異文化語用論研究 (研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 福井 美保子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目： 英語学特講) 平成20年度前期授業評価アンケート評価を受け、内容を分かりやすく伝えるため、補助資料を使用するなど、授業運営の改善活動を行った。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年度前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語学特講、日本文化英語演習、英語) 授業内容(説明は分かりやすかったか、興味深く聞くことができたか、レベルが適切だったか、内容がまとまっていたか、等)、及び、授業方法(教員の声は明瞭だったか、話す速度は適切だったか、教科書・配布資料の使い方は適切だったか)に関して、学部・学科の平均値を上回る得点であった。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「生成文法の企ての現在」	共著	2011年	(『生成文法の企て』岩波現代文庫版(岩波書店))	福井直樹	389-406頁
統辞構造論	共著	2014年 1月	(岩波書店)	ノーム・チョムスキー、福井直樹	

論文				
The Syntax of Dative Constructions in Japanese	単著	2011年	人文研究 (173号)	1-51頁
その他				
Case Valuation in Japanese under External Merge	単著	2011年	招聘講演 北海道大学言語研究会 北海道大学	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
年月		内容		
		個人研究 比較統語論		
1986年 4月～現在に至る		日本英語学会(国内学会)会員		
1986年 4月～現在に至る		日本言語学会(国内学会)会員		
1991年 9月～現在に至る		Linguistic Society of America(国内学会)会員		
1994年 4月～現在に至る		日本ロマンス語学会(国内学会)会員		
2005年 4月～現在に至る		個人研究 日本語・英語・ロマンス諸語の比較統論研究		
2005年 4月～現在に至る		個人研究 生成文法理論研究		
2009年10月～2015年 3月		その他の補助金・助成金 (CREST) 22,000,000円 「脳神経回路の形成・動作原理の解明と制御技術の創出」言語の脳機能に基づく神経回路の動作原理の解明 (研究分担者)		
2010年10月～2015年 3月		競争的資金等の外部資金による研究 (CREST) 22,000,000円 言語の脳機能に基づく神経回路の動作原理の解明(言語学理論グループ)		
2011年10月～2013年 3月		科学研究費補助金 2,760,000円 「基盤研究A」生成生物言語学に基づくヒトの言語能力の設計・発達・進化の統合的研究 (研究分担者)		

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 坪井 雅史	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
プレゼンテーションソフトとウェブを活用した授業サポート		2004年 4月 ～現在に至る	(授業科目：倫理学Ⅰ) 学生が講義を聞くことに集中できるよう、板書を極力減らし、プレゼンテーションソフトを用い、その内容をウェブサイトで公開し、学生のノート作成に利用させている。同時に、授業中には紹介できなかったウェブ上の資料にもアクセスできるようにしている。(平成16年4月～)		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
情報倫理入門	共著	2012年10月	(アイ・ケイコーポレーション)		
新版 医療倫理Q&A	共著	2013年 4月	(太陽出版)		
教養としての応用倫理学	共著	2013年10月	(丸善出版)		

論文				
合意形成の倫理的基礎づけについて(査読付)	単著	2012年 9月	医学哲学 医学倫理(30)	30-39頁
現代の監視とプライバシーの限界	単著	2013年12月	『人文研究』(181)	25-48頁
その他				
なし				
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
年月		内容		
1990年 4月～現在に至る		広島哲学会(国内学会)会員		
1990年 4月～現在に至る		日本倫理学会(国内学会)会員		
1991年 4月～2012年 3月		日本イギリス哲学会(国内学会)会員		
1996年10月～現在に至る		日本医学哲学・倫理学会(国内学会)会員		
2005年 4月～現在に至る		個人研究 倫理学・応用倫理学方法論		
2005年 4月～現在に至る		個人研究 情報倫理学		
2005年 4月～現在に至る		個人研究 物語とケアの倫理		
2008年10月～現在に至る		日本医学哲学・倫理学会(国内学会)評議員		
2012年11月～現在に至る		日本医学哲学・倫理学会(国内学会)理事 事務局長		
2013年 4月～現在に至る		科学研究費補助金(文科省)3,500,000円 「基盤研究(B)」世界における患者の権利に関する原理・法・文献の批判的研究とわが国における指針作成(研究分担者)		
2014年 4月～現在に至る		機関内共同研究(人文学研究所)自然観の東西比較(研究分担者)		

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 廣瀬 富男	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
CALLシステムの活用		2008年 4月 ～現在に至る	必修英語科目において、聴き取りおよび会話練習にCALLシステムを活用している。聴き取りについては、受講生が録音を自分のペースで何度も繰り返し聴くことができるという柔軟な学習形態を実現し、会話練習については、自分の発音をチェックする機能や、席を移動せずに会話のペアを自由に変更できる機能により、効果的かつ効率的な練習環境を実現している。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Some Notes on the Classifier Phrase Hypothesis	単著	2012年 3月	『ことばとところの探究』(開拓社),		119-132頁

Two systems of counting: Two sorts of complement (査読付)	共著	2014年	Proceedings the forty-sixth annual meeting of Chicago Linguistic Society: The main session	Takeru Suzuki	179-193頁
その他					
Two Systems of Counting: Two Sorts of Complement (査読付)	共著	2010年 4月	The 46th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society (University of Chicago)	<u>Tomio Hirose</u> , Takeru Suzuki	
The Structure of Numerical and Indeterminate Quantifiers in Japanese		2010年 8月	(九州大学)		
On Locative Wh-Questions in Plains Cree (査読付)	単著	2012年10月	The 44th Algonquian Conference (University of Chicago)		
Locative PPs in Blackfoot and Plains Cree (査読付)	共著	2013年 6月	CLA Conference 2013 (University of Victoria)	Heather Bliss, Rose-Marie Dechaine, <u>Tomio Hirose</u>	
A comparison of locative PPs in Blackfoot and Plains Cree (査読付)	共著	2013年10月	The 45th Algonquian Conference (University of Ottawa)	Rose-Marie Dechaine, Heather Bliss, <u>Tomio Hirose</u>	
Mutation in Dx: Spatial "PPs" in Blackfoot and Plains Cree (査読付)	共著	2013年10月	Workshop "Variation in P" (Universita Ca' Foscari Venezia)	<u>Tomio Hirose</u> , Heather Bliss, Rose-Marie Dechaine	

-Doosi and the nominal “reciprocity” in Japanese	単独	2014年 9月	The 9th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics (TEAL 9) (University of Nantes (France))		
The Syntax of P: Evidence from Algonquian	共同	2015年 1月	The 89th Annual Meeting of the Linguistic Society of America	Heather Bliss and Rose-Marie Déchaine	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1998年 8月～現在に至る		日本言語学会(国内学会)会員			
2003年 3月～現在に至る		日本英語学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 数・頻度表現と名詞句・動詞句の統語表示			
2009年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 780,000円 「基盤研究 (C)」 「数詞句単独投射仮説」に基づく日・中・英語名詞句構造の理論的・実証的研究 (研究分担者)			
2011年11月～2011年12月		『神奈川大学言語研究』第34号投稿論文査読者			
2012年 5月～2012年 7月		『九州大学言語学論集』第33号投稿論文査読者			
2013年 1月～2013年 2月		Proceedings of the 44th Algonquian Conference投稿論文査読者			
2013年10月～2013年12月		Natural Language & Linguistic Theory投稿論文査読者			
2014年 3月～2014年 3月		Proceedings of the 45th Algonquian Conference投稿論文査読者			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 山根 麻紀	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
CALLシステムを用いた双（多）方向授業の実践	2006年 4月 1日 ～現在に至る	FYSと一般英語の授業では、CALLシステムを用いた双方向授業を行っている。ワードで作成した教材を電子的に学生に配布し、学生が各々のPC上でそれを開き・解答を入力する。それをセンターモニタに呼び出してクラス全員で共有し、説明を加えたりディスカッションを行ったりするというものである。これによって個々の学生は、教員だけでなく他の学生からもフィードバックを得ることができるようになった。また、学生の学習モチベーションも上がっており、個々の学習成果が他の学生へのインプットに活かされている。	
学生による授業評価アンケート結果を反映した授業改善の取り組み	2008年 4月 1日 ～現在に至る	英語関連科目においては、教材の難易度に関する学生の評価に合わせ、毎回独自の教材を作成し、ハンドアウトとして配布している。教材の英語レベルが「難しい」と感じる学生が多ければ、より平易な構文・単語を用いた読解・英作文問題を作成し、それを実施することで理解を深める努力をしている。教材の英語レベルが平易である場合は、関連の話題でさらに難度が高い読解・英作文問題を作成して、英語力の育成に努めている。	
専門的知識と「実践知」をつなぐ教育方法の実践	2008年 4月 1日 ～現在に至る	専門科目では、基礎的知識の習得と理論的思考力の育成とともに、学生にとって実践面で有用な知識を盛り込むよう努力している。たとえば「言語習得論」においては、外国語話者に日本語を教授するケース・日本語母語話者が諸外国語を学習するケースなどに実際に生じる問題をたびたび引用し、学生に考えるよすがを与えている。こうすることで、専門的知識の理解を深め、同時に言語習得の現場（教授と学習）での実践に備えることが目的である。 また「英語学演習」においても、時に高度に抽象的な言語理論をわかりやすくするため、上記のような例に触れている。	
dotCampusを活用した授業の実践	2010年 4月 1日 ～現在に至る	授業で使う教材をすべてdotCampusでダウンロード可能にし、学生の利便性を計っている。	
2 作成した教科書、教材			

なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	「総合的にみた満足度」の項目において、専門科目（「言語習得論」・「英語学演習」）では、「強くそう思う」（強く満足である）または「そう思う」（満足である）と答えた学生が、全体の約90%に達した（2クラス平均値）。英語関連科目では、同項目の合計が約75%に達した（3クラス平均値）。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1999年 4月～現在に至る	日本英語学会(国内学会)会員				
2001年 5月～現在に至る	日本第二言語習得学会(国内学会)会員				
2005年 4月～現在に至る	個人研究 中間言語と普遍文法の関連について				
2005年 4月～現在に至る	個人研究 成人の第二言語習得				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 富谷 玲子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
共通教養系科目「日本語学1」におけるタスクブックの作成と使用	2006年 4月 1日 ～現在に至る	日本語学1では、日本語の諸相の分析を学生自身が行うことにより、学生自身による言語規則の発見を目指している。そのための教材として、課題を一冊にまとめた「日本語学タスクブック」を作成した。簡易製本で安価であるため、学生が購入しやすくなった。その結果、学生から、復習がしやすい、配布物紛失などの問題を防ぐことができるといった利点あることが報告された。	
フィールドワークの実施（アメリカカナダ大学連合日本研究センターの卒業発表会への参加）	2009年 6月 2日 ～現在に至る	日本語教育学1・3・4履修者を対象に、フィールドワークを実施した。フィールドワークでは、日本学を選考する英語圏の大学院生を対象とした日本語教育を実施しているアメリカカナダ大学連合日本研究センター（みなとみらい）を訪問し、卒業発表会に参加することによって、上級日本語学習者の到達レベルを、直接体験することができた。	
日本語学習者との交流授業の実施	2009年12月 8日 ～現在に至る	日本語教育学2の授業において、海外技術者研修協会横浜研修センターで日本語教育を受けているEPAによるフィリピン人看護師30名をお招きし、交流授業を行った。授業では、初級学習者でありながら高度な専門性を有する学習者への実像に接することができた。	
共通教養系科目「日本語学1」へのTAの導入	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	2008年度に引き続き、日本語学1にTAを導入した。TAには、授業補助のほか、教材作成補助、授業内の課題の提出確認などを依頼している。授業の運営がスムーズになったほか、教育職を目指すTAにとっても実務面を始め、授業の準備、処理などを体験することにより、効果的なOJTとなっている。	
国際交流基金海外日本語教育インターンプログラムへの日本語実習生の参加準備	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	国際交流基金が海外の日本語教育機関に日本語教育実習生を派遣するための資金支援を行うというプログラムで、プログラムへの参加申請を行ったところ、4月に内定通知を受理した。現在参加者の選抜が終わり、実務面の調整を行っている。このプログラムの一環として、8月には、実習生受け入れ校であるカーロリ大学（ハンガリー国ブダペスト市）の学生1名が、本学を訪問する予定。	

日本語教員養成課程日本語教育実習報告書の作成	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	前年度に引き続き、日本語教員養成課程日本語教育実習報告書作成のため、実習参加学生の原稿を集めつつある。現在までに、特別講演会の要約および気づきを記した二種類の原稿が、実習参加予定者から提出されている。
日本語教育学4へのTAの導入	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	日本語教育学4は、教育実習に直結する実践的な内容を持つ科目である。学生は、授業時間外に教材分析を徹底して行う必要がある。TAを導入することにより、学生の教材分析を補助し、よりスムーズに授業を運営することが可能となった。また、TAにとっても、効果的なOJTの機会となっている。
日本語教育実習 国内実習校・海外日本語教育インターンプログラムにおける日本語教育実習の企画と指導	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	学内実習校3校、海外実習校1校との協働のもとに、日本語教員養成課程における実践的な実習指導を行った。今年度は、国際交流基金の支援を受け、海外日本語教育インターンプログラムに参加することが内定しており、現在、派遣学生3名が内定し、9月初旬からの派遣に向けて実務的準備を行っている。
日本語教育実習参加学生のための特別講演会の実施	2010年 4月 1日 ～2010年 6月28日	前年度に引き続き、日本語教育実習参加学生のための、特別講演会を実施している。6月現在2回実施済みで、7月初旬に第3回目を実施する予定。
フィールドワークの実施（かながわ国際交流協会訪問）	2010年 5月13日 ～現在に至る	ゼミナール2履修者を対象に、フィールドワークを行った。神奈川県下の多文化共生の拠点であるかながわ国際交流財団（K I F）を訪問し、職員の富本潤子氏に、県内の情報の多言語化や外国人教育相談の現状について聞き取りを行い、ライブラリーを見学したのち、遊びを通じて子供から多文化共生に触れることのできるスペースを案内していただき、K I Fの取り組みの全容を知ることができた。
フィールドワークの実施（アメリカカナダ大学連合日本研究センターの卒業発表会への参加）	2010年 6月 8日 ～現在に至る	日本語教育学1・3・4・言語政策論の履修者を対象に、フィールドワークを実施した。フィールドワークでは、日本学を専攻する英語圏の大学院生を対象とした日本語教育を実施しているアメリカカナダ大学連合日本研究センター（みなとみらい）を訪問し、卒業発表会に参加することによって、上級日本語学習者の到達レベルを、直接体験することができた。
2 作成した教科書、教材		
日本語学 タスクブック	2006年 4月 ～現在に至る	日本語学1での作業用タスクブック。日本語の分析に学生が主体的に取り組めるよう、わかりやすい課題を集めて作成した。また、参考文献である野田尚史（1991）（「はじめての人の日本語文法」）を参照することにより、試験前などに自己学習できるようにしてある。安価で入手しやすく、自己学習が可能で、学生からも評価されている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
なし		

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
日本語の書き言葉をめぐるニューカマーのストラテジー (査読付)	単著	2011年 3月	『神奈川大学言語研究』 (33)		65-77頁
「繰り返し」による漢字語彙の定着に重点をおいた漢字授業：PowerPointを活用した初中級授業の分析	共著	2012年 3月	『神奈川大学言語研究』 (34)	木村祐子・北村尚子・富谷玲子	73-94頁
子育て場面で外国人保護者が直面する書き言葉の課題 - 保育園・幼稚園児の保護者を対象とした調査から -	共著	2012年 3月	『神奈川大学言語研究』 (34)	富谷玲子・内海由美子・仁科浩美	53-71頁
その他					
書評 春原憲一郎編『移住労働者とその家族のための言語政策 - 生活者のための日本語教育 -』	単著	2010年	『移民政策研究』 (2)		197-199頁

外国人散在地域における日本語教育の基盤作りに向けて ー大都市と地方都市の比較からー	共著	2011年10月	2011年度日本語教育学会秋季大会	富谷玲子・内海由美子	
『モダリティと言語教育』		2012年 3月			
海外日本語教育実習における指導目標の検討	単著	2012年 8月	2012年日本語教育国際研究大会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1987年 1月～現在に至る		日本語教育学会(国内学会)会員			
1998年 7月～現在に至る		上智大学国文学会(国内学会)会員			
2003年 7月～現在に至る		日本言語政策学会(国内学会)会員			
2004年 4月～現在に至る		神奈川大学人文学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 接触場面における協同学習・ニューカマーを対象とする日本語教育			
2005年 6月～現在に至る		日本言語学会(国内学会)会員			
2005年 7月～現在に至る		日本語教育方法研究会(国内学会)会員			
2005年 7月～現在に至る		社会言語科学会(国内学会)会員			
2006年 4月～現在に至る		日本語教育連絡会議(国際学会)会員			
2007年 6月～2011年 5月		日本語教育学会(国内学会)大会委員会委員			
2008年 4月～現在に至る		移民政策学会(国内学会)会員			
2009年 4月～2012年 3月		その他の補助金・助成金(神奈川県共同研究奨励助成)6,000,000円 グローバリズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究 ー環日本海地域を対象としてー(研究代表者)			
2009年 7月～2011年 6月		小出記念日本語教育研究会(国内学会)会員			
2010年 7月～現在に至る		日本プロフィシェンシー研究会(国内学会)会員			
2011年 4月～2014年 3月		科学研究費補助金 3,900,000円 「基盤研究(C)」 「移民言語としての日本語」の基礎的研究(研究代表者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 細田 由利	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
L2 Learners' Orientation to Multimodal Activities in Peer Activities. (査読付)	共著	2010年	(T. Greer (Ed.), Observing Talk: Conversation Analytic Studies of Second Language Interaction. The Japan Association for Language Teaching.)	Yuri Hosoda & David Aline	43-58頁

Teacher deployment of applause in interactional assessments of L2 learners. (査読付)	共著	2010年	(G. Kasper, H. Nguyen, D. Yoshimi, & J. K. Yoshioka (Eds.), Pragmatics & Language Learning, 12, University of Hawai'i National Foreign Language Resource Center.)	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	255-276頁
English language policy in South Korea: A holistic model approach to the study of language policy research in educational contexts	共著	2014年 3月	The impact of globalization on language policy and social change. (Hitsuji Shobo)	Aline, D.	53-80頁
論文					
Positions and actions of classroom specific applause. (査読付)	共著	2010年	Pragmatics 20	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	133-148頁
Learning to be a teacher: Development of EFL teacher trainee interactional practices. (査読付)	共著	2010年11月	JALT Journal 32(2)	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	119-147頁
Categories, culture, and context in mundane conversation: An exercise in single episode analysis	単著	2011年10月	人文学研究所報 (神奈川県大学) (46)		67-84頁

Doing being interrupted by noise as a resource in second language interaction (査読付)	共著	2012年 1月	Journal of Pragmatics 44(1)	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	54-70頁
Two preferences in question-answer sequences in language classroom context (査読付)	共著	2013年 5月	Classroom Discourse 4(1)	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	63-88頁
Missing response after teacher question in primary school English as a foreign language classes (査読付)	単著	2014年12月	Linguistics and Education, Elsevier 28		1-16頁
その他					
Assisting peers: Preference for selected speaker response in language classrooms. (査読付)	共著	2010年 6月	The 12th Annual International Conference for the Japanese Society for Language Sciences, Chofu, Tokyo	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	
Doing being interrupted by "noise" in peer discussions (査読付)	共著	2010年 7月	International conference on conversation analysis 10, Mannheim	David Aline & <u>Yuri Hosoda</u>	
Teacher trainees' pragmatic development through classroom interaction: Directives (査読付)	単著	2010年 7月	18th International Conference on Pragmatics & Language Learning, Kobe University		

小学校英語活動の長期にわたる観察研究：児童と大学生サポーターの学習過程	共著	2011年 3月	平成20年度～平成22年度科学研究費補助（基盤研究C）研究成果報告書	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	1-114頁
Persistent Preference for Selected-Student Response in EducationalSettings (査読付)	共著	2011年 7月	12th International Pragmatics Conference 2011, Manchester	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	
Realization of membership categories in multi-party interaction in an educational setting (査読付)	共著	2011年 7月	12th International Pragmatics Conference 2011, Manchester	David Aline & <u>Yuri Hosoda</u>	
Relevance of various social identities in multi-party interaction in an educational context (査読付)	共著	2011年 7月	The International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis Conference 2011, Fribourg, Switzerland	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	
Two preferences in question-answer sequences in an educational context (査読付)	共著	2011年 7月	The International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis Conference 2011, Fribourg, Switzerland	David Aline & <u>Yuri Hosoda</u>	
Multimodal Orientations in Second Language Interaction	共著	2012年 2月	英国エセックス大学 Department of Linguistics (言語学部) 学部セミナーにおける招待講義	<u>Yuri Hosoda</u> & David Aline	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1997年 1月～現在に至る	全国語学教育学会(国内学会)会員
1998年 3月～現在に至る	国際語用論学会(国際学会)会員
1999年 9月～現在に至る	米国応用言語学会(国際学会)会員
2000年 9月～2010年	個人研究 会話分析の第二言語習得研究への応用
2002年 9月～現在に至る	日本語用論学会(国内学会)会員
2003年 1月～現在に至る	社会言語科学会(国内学会)会員
2008年 4月～2011年 3月	国内共同研究(日本学術振興会)3,780,000円 小学校英語活動の長期に渡る観察研究:児童と大学生サポーターの学習過程
2008年 4月～2011年 3月	科学研究費補助金 3,780,000円 「基盤研究C」小学校英語活動の長期に渡る観察研究:児童と大学生サポーターの学習過程(研究代表者)
2011年 4月～2014年 3月	個人研究 490,000円 大学生の「英語が使える」能力の実情観察研究:暫時的及び長期的研究
2011年 4月～2014年 3月	機関内共同研究(神奈川大学)5,299,000円 グローバリズムに伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 4,940,000円 「基盤研究C」大学生の「英語が使える」能力の実情観察研究:暫時的及び長期的研究(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 駒走 昭二	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用		2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：日本語学1) 2006、2008、2010、2012年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、テキスト・補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
学生による授業評価アンケート結果の活用		2007年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：日本語学2) 2006、2008、2010、2012年度授業評価アンケートの結果を受け、内容をわかりやすく伝えるため、板書の工夫、テキスト・補助資料の使用など、授業運営の改善活動を行った。
思考レベルでの授業参加		2008年10月 1日 ～現在に至る	「現代日本語学3」では、問題発見能力を養うことを狙いとして、授業内容に関連する質問を常時投げかけ、受講者全員に記述にて回答させた。これにより、受講生にとっての無意識な事柄の意識化を図った。
思考レベルでの授業参加		2009年10月 1日 ～現在に至る	「日本文化論5」では、問題発見能力を養うことを狙いとして、授業内容に関連する質問を常時投げかけ、受講者全員に記述にて回答させた。これにより、受講生にとっての無意識な事柄の意識化を図った。
2 作成した教科書、教材			
共通教養系科目の教材作成		2013年 4月 1日 ～2014年 3月31日	前期、後期ともに各授業内容に即した復習問題 (B5で2枚) を自ら作成し、毎回配布した。これにより理解の確認と定着を図った。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2010年度前期授業評価アンケート結果		2010年 4月 1日 ～2010年 9月30日	(授業科目：日本語学1) 学生による授業評価アンケートの「あなたにとって、この授業は全体として満足な内容であったと思いますか」という評価項目において、大教室での授業にも関わらず全体の平均値を大きく上回る評価を得た。
2010年度後期授業評価アンケート結果		2010年10月 1日 ～2011年 3月31日	(授業科目：日本文化論5) 学生による授業評価アンケートの「授業の内容の説明や話し方は明確でしたか」「教材の提示方法は授業の理解を助けるような工夫がされていたか」「教科書、参考書、配付資料等は、授業の理解に役立ちましたか」という評価項目において、いずれも約9割の受講生から「とてもそう思う」「ややそう思う」との、評価を得た。

2012年度前期授業評価アンケート結果	2012年 4月 1日 ～2012年 9月30日	(授業科目：日本語学1) 学生による授業評価アンケートの「この授業を履修して良かったと思いますか」という評価項目において、大教室での授業にも関わらず全体の平均値を大きく上回る4.5点(5点満点)の評価を得た。			
2012年度後期授業評価アンケート結果	2012年10月 1日 ～2013年 3月31日	(授業科目：日本文化論5) 学生による授業評価アンケートの「この授業を履修して良かったと思いますか」という評価項目において、受講生の約97%から「そう思う」「ややそう思う」との、評価を得た。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
日本語学最前線	共著	2010年 5月	(和泉書院)	◎田島毓堂、駒走昭二、櫻井豪人、加藤浩司、勝又隆、他	243-258頁
論文					
『新スラヴ・日本語辞典』における漢語語彙(査読付)	単著	2011年12月	『語彙研究』(語彙研究会) (9)		38-46頁
18世紀薩隅方言における現代共通語(査読付)	単著	2014年 3月	『語彙研究』(語彙研究会) (11)		65-72頁
現代語の形成と中央語の伝播－『新スラヴ日本語辞典』を資料として－(査読付)	単著	2014年12月	『文学・語学』(全国大学国語国文学会) (211)		130-141頁
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			

1992年 4月～現在に至る	名古屋大学国語国文学会(国内学会)会員
1992年 5月～現在に至る	日本語学会(国内学会)会員
2002年 4月～2014年 3月	韓国日本語文学会(国際学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 文献方言史
2005年 4月～現在に至る	個人研究 日本語史
2014年 4月～現在に至る	全国大学国語国文学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 鈴木 幸子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1992年 9月～現在に至る		カナダ、アルバータ州日本語教育研修会「KIMONO」教科書の使い方の研修担当			
2003年 3月～現在に至る		社団法人 日本観光通訳協会 会員			

2004年 4月～現在に至る

全日本通訳案内業者(現通訳案内士)連盟会員 新人研修委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
外国語学部国際文化交流学科	准教授	クリスチャン ラットクリフ	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業アンケート結果の活用	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：日本文化英語演習) 平成20年度前期授業評価アンケート評価に、黒板の使い方があんまり良くないという評価があり、いろいろな資料を参考にして板書をより上手に、或いは分かりやすくできるようにと努力しています。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語ListeningAD) 20年度前期授業評価アンケートのコメント記入欄に、「教材はちょっと難し過ぎる」のようなコメントがありました。これを受け、後期のために準備してあった教材を置いて、新しい教材を利用することを決定しました。後期の評判はとても良かったです。	
2 作成した教科書、教材			
国際文化交流専門演習II 「文学の効用、文学の価値」 関連教材	2009年 4月 ～現在に至る	「文学の効用、文学の価値」という副題をもつ、国際文化交流専門演習IIというコースの教材として、次の文献、解説と英訳を含む冊子を用意した： 島田雅彦の『優しいサヨクのための喜遊曲』の一部、天野恵一のエッセイ、「挫折小説」はなぜいつも優しさなのか、『古事記』の一部、『古今和歌集』の仮名序、『詩経』の一部、『論語』の一部、古代中国の史書に見られる日本に関する項目、男性による中世日本の仮名日記からの記載、中世ヨーロッパの演劇や吟遊詩人文化に関するもの。これらを以って、色んな時代の色々な文化圏に於いて、文学はどのような立場にあったのかを学生に考察してもらおう。	
国際文化交流専門演習I-Bのための、「蹴鞠」に関する教材	2009年 8月 ～現在に至る	国際文化交流専門演習I-Bというコースの教材として、『日本書紀』『枕草子』『源氏物語』、中世の説話集である『続古事談』と『古今著聞集』、そして中世の仮名日記の『春の深山路』からの蹴鞠に関する抜粋や、その解説と英訳が入っているものを作成した。これは色々な時代の色々なタイプの文献を基に、どうすれば良いプレゼンテーションやレポートを書けるか、という点を学生に実践的に考えてもらうための教材である。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			

2007-08年度の授業評価アンケートの結果		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：日本文化英語演習) この学年の前期・後期授業評価アンケートのコメント記入欄に、配布資料のいずれもが「面白かった」や「役に立った」、「適切だった」などのコメントが多かったです。		
2008年授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語表現演習A、英語表現演習B、英語ListeningAD、日本文化英語演習) 2008年の全ての前期授業評価アンケートに、「授業に対する興味関心及び教員に熱意を感じた」という評価項目で学部の平均値を上回る評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2000年 9月～現在に至る		アジア研究協会(国際学会)会員			
2001年12月～現在に至る		和歌文学会(国内学会)会員			
2004年 6月～現在に至る		アメリカ日本文学会(国際学会)会員			
2005年 1月～現在に至る		日本語教員協会(国際学会)会員			
2005年 3月～現在に至る		ヨーロッパ日本研究協会(国際学会)会員			
2007年 4月～現在に至る		個人研究 日本中世文学・文化史。特に文学の社会的意味と価値			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 岩永 由理	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2002年 4月～現在に至る		日本独文学会(国内学会)会員			
2006年～現在に至る		個人研究 歴史的アヴァンギャルドの思想的背景と作品美学の解明			

2006年10月～現在に至る

表象文化論学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 深澤 徹	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
ゼミ生に対する論文指導		2012年 4月 1日 ～2014年 7月31日	ゼミ生には毎年、各自のテーマを定めて論文作成を指導し、人文学会主催の懸賞論文(10月締切)に応募させている。過去二年間の実績は、入選1名、佳作2名である。		
dotCampusを活用した授業の実践		2014年 4月 1日 ～2014年 7月31日	受講生が多数に及ぶ、共通教養科目の「文学」(前期)にて、dotCampusを活用し、資料配布や課題の提出、臨時テストの告知を行った。これによって自主的な予習復習が可能となり、やむをえず欠席した学生の利便性も確保することができた。後期においてもdotCampusの活用を継続したい。		
2 作成した教科書、教材					
共通教養科目「文学」の教科書作成		2012年 4月 5日 ～2012年 4月 5日	2012年度に他2名と共著で作成した『平安文学十五講』(新典社)を用いて講義を進めてきたが、利用頻度が高く、在庫払底で、2014年度に再販された。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
「文部科学省教員組織審査」		1993年 4月 ～現在に至る	桃山学院大学大学院文学研究科国際文化学専攻博士(前期)課程[日本文学研究特殊講義担当]M合助教授の判定を受ける		
「文部科学省教員組織審査」		1999年 4月 ～現在に至る	桃山学院大学大学院文学研究科比較文化学専攻博士(後期)課程[日本文学研究講義担当]D合助教授の判定を受ける		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

相模原陸軍士官学校練兵場跡地開拓60周年記念誌『麻溝台地区の生い立ち』	共著	2010年 4月	(自費出版)		
『往きて、還る。一やぶにらみの日本古典文学』	単著	2011年 9月	(現代思潮新社)		1-241頁
狂言綺語へのあらがい	単著	2012年 3月	(高橋亨退官記念論集 (森話社))		
平安文学十五講	共著	2012年 4月	(翰林書房)	井上真弓・鈴木泰恵	
きつねたちはなにもので、どこからきて、どこへいくのか?—「名前」を得ること、もしくは「演技する身体」のアイロニー	単著	2012年 7月	(小峯和明編『東アジアの今昔物語集』 勉誠社)		652-692頁
歴史物語と歴史叙述	共著	2013年 4月	(日本文学史 古代・中世編 ミネルヴァ書房)	小峯和明以下23名の分担執筆。	231-247頁
慈円『愚管抄』	単著	2013年 6月	(『日本の思想』 岩波書店) 卷6「秩序と規範」		284-295頁
論文					
古典<知>の実学化に向けて—超越的(タテ)ではなく、超越論的(ヨコ)の位置取りへ(上)	単著	2010年 4月	『物語研究』 Added Volume		
日本紀の<影>	単著	2013年 3月	アジア遊学161『「偽」なるものの「射程」』 勉誠社 Added Volume(161)		192-195頁

夏目漱石『虞美人草』 に見る、馬琴の〈影〉 (上)	単著	2013年 4月	神奈川大学人文学会『人 文研究』179 2008年度年会、近畿大学 (179)		21-45頁
夏目漱石『虞美人草』 に見る、馬琴の〈影〉 (下)	単著	2013年 9月	神奈川大学人文学会『人 文研究』180 (180)		77-123頁
いちしるき主体構築— 『愚管抄』にみる、「 カタカナ表記」のパフ ォーマティブ	単著	2014年 3月	明治大学古代学研究所『 古代学研究紀要』20		63-85頁
その他					
吃音とエクリチュール	単著	2013年 4月	日本文学協会『日本文学 』		
「末期の眼」ふたたび — 3・11 震災によせ て	単著	2014年 6月	物語研究会会報 (44)		1-5頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1980年 4月～現在に至る	物語研究会(国内学会)会員
1985年 4月～現在に至る	中古文学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	中世文学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本文学協会(国内学会)会員
1990年 4月～現在に至る	大学教育学会(国内学会)会員
1990年 4月～現在に至る	説話文学会(国内学会)会員
2003年 4月～現在に至る	中古文学会(国内学会)代表委員
2004年 4月～現在に至る	日本思想史学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	日本文学協会(国内学会)代表委員
2012年 4月～2014年 3月	物語研究会(国内学会)事務局代表
2014年 4月～現在に至る	物語研究会(国内学会)機関誌編集長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 小熊 誠	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
「沖縄の村落移動と風水 - 村落史伝承と歴史的事実-」	単著	2011年 3月	神奈川大学日本常民文化 研究所編『歴史と民俗』 (平凡社) 27		155-184頁

「沖縄と福建における亀甲墓をめぐる比較研究」	単著	2011年 7月	国際常民文化研究機構『”モノ”語り－民具・物質文化からみる人類文化－』（国際シンポジウム報告書2）	61-72頁
沖縄と福建における亀甲墓の対比－外部意匠の比較を中心に－	単著	2013年 3月	『東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史』（国際常民文化研究叢書） 3	43-61頁
綱引き行事の消滅と復活から見た歴史と民俗－沖縄県宜野湾市の事例から－	単著	2013年 3月	『歴史と民俗』（平凡社） 29	159-185頁
その他				
近世琉球における士族門中の親族の特徴	単著	2010年12月	『第十二届中琉歴史関係国際学術会議論文集』（北京図書出版社）	105-111頁
沖縄の村落移動と風水	単著	2011年 3月	お茶の水女子大学比較日本学研究教育センター『比較日本学教育研究センター研究年報』（第7号）	43-44頁
解題「第14会常民文化研究講座」全体報告	単著	2012年 2月	神奈川大学日本常民文化研究所編『歴史と民俗』（平凡社） 28	128-132頁
日本文化の中の琉球弧	単著	2012年 3月	【歴博フォーラム民俗展示の新構築】『琉球弧海洋をめぐるモノ・人、文化』（岩田書院）	17-26頁
近世琉球における村落移動と風水	単著	2012年12月	『アリーナ』 14	96-107頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1978年 4月～現在に至る	日本民俗学会(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	日本文化人類学会(旧称 日本民族学会)(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	歴史人類学会(国内学会)会員
1984年 4月～現在に至る	国内共同研究(昭和59年～61年度日本生命財団特別研究助成)文化教育としての環境教育の総合的研究－民族文化のなかの環境教育－
1988年 4月～現在に至る	沖縄民俗学会(国内学会)会員
1996年 4月～現在に至る	日本宗教学会(国内学会)評議委員
2001年 4月～現在に至る	沖縄民俗学会(国内学会)副会長
2007年10月～現在に至る	『沖縄市史』(民族編)編集責任者
2009年 4月～現在に至る	個人研究 東アジアにおける民俗の比較研究

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 ステファン ブッヘンベルゲル	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Ray Bradbury: The Martian Chronicles	単著	2010年	Masterplots (Salem Press) Fourth Edition, pp. 3556-3558		

Comic Book Villains and the Loss of Humanity	単著	2012年	International Journal of Comic Art (Independent Publication) Vol. 2 (No. 2, pp. 539-552)		
James Lee Burke	単著	2012年	Critical Survey of Short Fiction (Salem Press) pp. 287-290		
Superman and the Corruption of Power	単著	2012年	The Ages of Superman: Essays on the Man of Steel in Changing Times (McFarland) pp. 192-198		
Superman: Red Son	単著	2012年	Critical Survey of Graphic Fiction (Salem Press) pp. 573-576		
その他					
Comic Book Villains and the Loss of Humanity	単著	2010年 8月			
Three Plots Against America	単著	2011年 6月			
Zur Situation des Deutschen und der Germanistik in Japan	単著	2011年11月			
Japan, Deutschland, Fukushima und ich	単著	2011年12月			
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2000年 5月～現在に至る		日本独文学会(国内学会)会員			
2001年10月～現在に至る		International Comparative Literature Association(ICLA)(国内学会)会員			
2001年10月～現在に至る		日本比較文学会(国内学会)会員			

2003年10月～現在に至る	日本独文学会(国内学会)東京支部
2003年11月～現在に至る	横浜日独協会(国内学会)会員
2004年 6月～現在に至る	ドイツ語技能検定試験 試験官

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 熊谷 謙介	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
〈悪女〉と〈良女〉の 身体表象	共著	2012年 3月	(青弓社)	笠間千浪、山口ヨシ子、熊谷謙 介、小松原由理、前島志保、村 井まや子	
論文					
パフォーマンスという 危機?—二〇〇五年ア ヴェニョン・フェステ イヴァルとフランス	単著	2010年 4月	『表象』(表象文化論学 会誌) (月曜社) (4)		94-100頁
マラルメと「遺贈」— 『賽の一振り』を中心 に	単著	2010年 9月	『人文研究』 (171)		55-75頁

ルドン、ラフォルグ、マラルメー無意識の美学	単著	2011年 9月	『人文研究』(174)		1-24頁
自然が与えるモデルニターセザンヌとマラルメ	単著	2012年 3月	『ユリイカ』(青土社)(609)		174-181頁
マラルメの星座、ケージの星群	単著	2012年10月	『ユリイカ』(青土社)(2012年10月号, 182-188)		182-188頁
偶然と女—マラルメ『賽の一振り』分析(査読付)	単著	2012年12月	『人文研究』(177)		1-29頁
ダンシング・ベア、シャイニング・ベア——熊としての芸術家の肖像	単著	2013年 8月	『ユリイカ』(2013年9月号)		168-176頁
BL小説の起源? ——ラシルド『自然を外れた者たち』分析	単著	2013年12月	人文研究(181)		49-69頁
マラルメの「喪の日記」?—『アナトールの墓』分析	単著	2014年12月	人文研究(184)		73-118頁
その他					
マラルメの現代性		2010年 7月	(神奈川大学人文学会)		
踊る女の両義性—19世紀末フランスにおけるサロメの表象を中心に		2010年 7月	(神奈川大学人文学会(〈身体〉とジェンダー研究会))		
世紀末絵画における「デザイン」という思想—ゴーギャン、ナビ派を中心に		2010年 9月	(神奈川大学人文学会(表象文化研究会))		
マラルメの「現代性」		2011年 7月	(日仏会館(日仏若手セミナー))		
[書評] 暗礁なき航海—原大地『マラルメを読もう』書評	単著	2011年 7月	『週刊読書人』(2011年7月15日号)		

エチュード、自然、静物—セザンヌとマラルメ		2012年 3月	(京都大学 (第14回関西マラルメ研究会))	
[書評] 「イメージ」から「イメージ」へ—郷原佳以『文学のミニマル・イメージ—モーリス・ブランショ論』書評	単著	2012年 4月	『表象』(6号, 249-252)	249-252頁
[学会発表] 舞台上演と典礼の間で—マラルメによる「声」の祝祭	単著	2013年 6月		
[書評] 佐々木滋子『祝祭としての文学—マラルメと第三共和政』書評	単著	2013年 9月	Cahier (12)	15-16頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年11月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	表象文化論学会(国内学会)会員
2010年 4月～現在に至る	表象文化論学会(国内学会)『表象』編集委員
2011年 4月～2015年 3月	その他(科研費) 4,000,000円 マラルメと象徴主義を中心とする無意識の詩学の生成とその展開
2011年 4月～2013年 3月	日本フランス語フランス文学会(国内学会)日本フランス語フランス文学会関東支部論集編集委員
2011年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 4,000,000円 「若手研究B」 マラルメと象徴主義を中心とする無意識の詩学の生成とその展開(研究代表者)
2013年 4月～2014年 3月	その他(科研費) フランス19世紀末を中心とする表象文化論
2013年 4月～現在に至る	機関内共同研究(神奈川大学)6,000,000円 都市表象・身体表象の生成とその変容
2014年 6月～現在に至る	日本フランス語フランス文学会(国内学会)日本フランス語フランス文学会常任幹事

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 上原 雅文	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
卒論に至るまでの論文指導		2011年 4月 ～現在に至る	2年次のゼミナールⅠ、3年次のゼミナールⅡ、同じく3年次の国際文化交流専門演習において、卒論に繋がる論文指導を行い、毎年度末に2～3年次の論文集を作成している。そしてその年10月に行われる人文学会主催の懸賞論文に応募するよう指導し、2013年度は3名、2014年度は2名の受賞者が出た。		
学生・教員間の双方向授業の実践		2011年 4月 ～現在に至る	日本思想史、文化受容論、哲学、倫理学の授業において、毎回A5版のリコメントペーパーを配付し、授業概要と質問・意見を書かせている。次回で優れたコメントを公表したり質問に答えたりすることによって、学生の授業参加を促している。また難易度の調整にも役立てている。また、適宜、授業内で発問し、学生の意見を聞いている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
倫理	共著	2013年 1月	(数研出版)	片山洋之助、細谷昌志、吉田武男、星川啓慈、 <u>上原雅文</u> 、他	

倫理 教授資料	共著	2013年 2月	(数研出版)	片山洋之助、細谷昌志、吉田武男、星川啓慈、上原雅文、他	
論文					
日本人の靈魂観	単著	2011年 9月	『医学哲学と倫理』(日本医学哲学・倫理学会)(第9号)		26-31頁
『一遍聖絵』に描かれた一遍と神々 「仏法を求める垂迹神」をめぐって	単著	2012年 3月	『寺社と民衆』(民衆宗教史研究会出版局)第八輯		
その他					
日本古代の神観念と自然景観の構造化	単著	2013年 3月			
神・仏観念と景観	単著	2014年 7月			
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1990年 4月～現在に至る		日本思想史学会(国内学会)会員			
1991年 4月～現在に至る		日本倫理学会(国内学会)会員			
2008年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金(日本学術振興会)3,600,000円 「基盤研究(C)」神・仏観念の共存と相互排除をめぐる倫理思想史的研究—超越観念の再規定の試み—(研究分担者)			
2009年 4月～2011年 3月		大学入試センター教科科目第一委員会 委員(倫理)			
2010年 4月～2013年 3月		科学研究費補助金(日本学術振興会)3,200,000円 「基盤研究(C)」一遍の神仏関係思想における倫理学的原理に関する研究(研究代表者)			
2011年 4月～2014年 3月		科学研究費補助金(日本学術振興会)4,200,000円 「基盤研究(C)」神・仏観念の生成と展開に関する倫理学的研究(研究分担者)			
2011年 6月～現在に至る		日本医学哲学・倫理学会(国内学会)会員			
2014年 4月～現在に至る		科学研究費補助金(日本学術振興会)3,800,000円 「基盤研究(C)」神仏共存世界における人間の「現存」に関する倫理学的研究—『愚管抄』を中心に—(研究代表者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 助教	氏名 山本 信太郎	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
はじめて学ぶ イギリスの歴史と文化	共著	2012年 7月	(ミネルヴァ書房)	指昭博編	
ヘンリ8世の迷宮 イギリスのルネサンス君主	共著	2012年 7月	(昭和堂)	指昭博編	
論文					
なし					
その他					

パトリック・コリンソン編『オックスフォード ブリテン諸島の歴史6 16世紀 1485年-1603年』	共著	2010年12月	慶應義塾大学出版会	井内太郎監訳、6名	433頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1995年 4月～現在に至る		日本西洋史学会 会員			
1995年 4月～現在に至る		立教大学史学会 会員			
1997年 4月～現在に至る		関西西洋史研究会 会員			
1999年 9月～現在に至る		比較都市史研究会 会員			
2007年 4月～現在に至る		朝日カルチャーセンター講師			
2008年 5月～現在に至る		歴史学研究会 会員			
2009年 6月～現在に至る		めぐろシティカレッジ講師			
2011年 4月～現在に至る		歴史学会 常任理事			
2011年 9月～現在に至る		NHK文化センター講師			
2012年 4月～現在に至る		個人研究 イングランド宗教改革			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 助教	氏名 久田 和孝	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					

在外政府機関の協力的 ガバナンスにおける日 韓比較研究 —文化外交の為の文化 院の役割を中心に— The Korea-Japan Comparative Study on Collaborative Governance of Governmental Organization Abroad — Focusing on the role of the Cultural Centers for Public Diplomacy — (査読付)	単著	2012年12月	博士論文 (大韓民国・成 均館大学校)		
パブリック・ディプロ マシーと文化発信拠点 ——日本と韓国の比較 を中心に——	単著	2013年 9月	神奈川大学「人文研究」 (180号)		
文化外交としての韓国 語普及政策： 日本における韓国教育 院と世宗学堂を中心に	共著	2014年 3月	人文学研究所報 (No. 51)	久田和孝、緒方義広	
日本のパブリック・デ ィプロマシー：韓国に おける事例	共著	2014年 8月	人文学研究所報 (No. 52)	久田和孝、緒方義広	
その他					
「日韓関係の12年～政 治、経済、文化の側面 から～」駐横浜大韓民 国総領事館		2012年11月	(横浜市)		

発表「日韓の政治文化に関する比較考察—政権選択選挙の事例を中心に—A comparative Study of the Political Culture of Japan and Korea -Focusing on the Election of regime choice-」	単著	2013年 2月	慶南大学極東問題研究所 ・神奈川大学共同セミナー		
「街場の韓国論-政治、経済、文化」韓国歴史文化講座「コリアンカルチャーサロン」（神奈川韓国総合教育院主催）		2013年10月	(横浜市)		
寄稿「日韓関係 議員の対話、修復の糸口に」（私の視点）	単著	2013年12月	朝日新聞 2013年12月7日付朝刊		
Report "Parliamentarian diplomacy opening opportunities for Japan-South Korea relations"	単著	2014年 1月	Asia and Japan Watch by The Asahi Shimbun 2014年1月15日		
研究時評「日中韓とアジア的価値の幻想」	単著	2014年 3月	神奈川大大学アジア研究センター「神奈川大学アジア・レビュー」 (1)		
「韓国のパブリック・ディプロマシー—韓流の淵源と日韓文化交流—」・駐横浜大韓民国総領事館		2014年 6月	(駐横浜大韓民国総領事館)		

「韓国の文化とコンテンツ産業」、神奈川県みなとみらいエクステンションセンター・アジア研究センター主催講座「日中韓の歴史、文化、社会」		2014年10月	(横浜市)		
日韓関係の発展－政治、経済、文化交流の21世紀初期変遷	単著	2014年10月	神奈川大学アジア研究センター・成均館大学SSK 中型事業団共同セミナー		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2001年11月～現在に至る		韓国NGO学会(国際学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		日韓市民フォーラム2002「テロ事件後の北東アジア」 通訳員			
2004年 1月～現在に至る		韓国NGO学会 持続発展可能プロジェクト分科会 (後援：現代自動車) 担当スタッフ			
2004年 9月～現在に至る		韓国行政学会(国際学会)会員			
2005年 5月～2010年 6月		韓日議員連盟 囑託通訳			
2006年 4月～現在に至る		韓国行政学会・韓国地方自治学会 合同春季学術大会 (於：忠南大学校) 共同研究発表			
2007年 1月～現在に至る		韓国国会与党 北朝鮮 開城工業団地 視察団 随行員			
2007年 9月～現在に至る		日韓・韓日議員連盟 第33次合同総会 (於：ソウル) 運営通訳			
2008年 1月～2010年 9月		東亜日報 (WEB版) 翻訳監修担当			
2008年 6月～現在に至る		韓国NGO学会 韓国市民社会研究プロジェクト研究補佐 (後援：トヨタ財団)			
2009年 9月～現在に至る		韓国日本語文化学会(国内学会)会員			
2010年 8月～現在に至る		大韓民国仁川広域市 国際諮問官 委嘱			
2010年11月～現在に至る		韓日未来フォーラム(国内学会)会員			
2011年 7月～現在に至る		2014年第17回アジア競技大会 (於：大韓民国仁川広域市) サポーター広報大使 委嘱			
2013年 3月～現在に至る		大韓民国 国会立法調査処 海外諮問委員			
2014年 2月～現在に至る		東アジア文化都市2014横浜 林文字市長付Aクラス通訳			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 菊地 恵太	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
dotCampusを活用した授業の実践		2013年 4月 1日 ～現在に至る	ほぼすべての授業においてdotCampusを活用し学生のレポート回収および個別指導を行っている。		
ゼミ生に対する個別指導		2014年 4月 1日 ～現在に至る	専門演習IIを履修中の学生に対して週60分の授業外指導を行っている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
一般英語カリキュラム運営委員としての活動		2013年 4月 1日 ～現在に至る	2014年度からの英語必修8単位化に際してのカリキュラム改革における運営に関して2名のうちの1名としてカリキュラムの編成方針を初め、教育目標、内容に関して検討を行い、運営を行っている。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Designing listening tasks:Lessons learned form needs analysis studies	共著	2012年 3月	(TESOL Press, Teaching Listening:Voices form the Field (編集: N. Ashcraft and A. Tran))	Jpseph V. Dias, Keita Kikuchi	9-30頁

論文					
Needs analysis in Japanese EFL Context:utilizing triangulation techniques	共著	2011年 4月	青山学院大学 英文学思潮83		1-29頁
L2 Tasks and Educational Contexts in Japan:A Qualitative Analysis of Japanese High School English Teachers Beliefs	共著	2012年 9月	JABABET Journal, 16日英語教育学会	Brian Wistner, Hideki Sakai	5-20頁
その他					
Discovery English I	共著	2012年 1月	開隆堂出版		
Discovery English II	共著	2013年 1月	開隆堂出版		
Student voices: What does motivation mean?	単著	2013年10月	JALT 2013		
JALT高知チャプターミーティング		2013年12月	(高知大学)		
Discovery English III	共著	2014年 1月	開隆堂出版		
ELLTA Meetings, Centre of Applied Linguistics		2014年 3月	(University of Warwick, イギリス)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2003年 9月～現在に至る		全国語学教育学会 (JALT) 会員			
2005年 4月～現在に至る		大学英語教育学会 (JACET) 会員			
2006年 4月～現在に至る		Asia TEFL 会員			
2006年 8月～現在に至る		山口県平成18年度英語教員指導力向上研修 (2期 高等学校) 講師			

2007年 2月～現在に至る	全国語学教育学会 (JALT) Fukuoka Chapter meeting福岡女学院大学 (福岡県・福岡市) 特別講義 講師
2008年 1月～現在に至る	全国語学教育学会 (JALT) Fukuoka Chapter meeting中村学園大学 (福岡県福岡市) 特別講義 講師
2008年 1月～現在に至る	全国語学教育学会 (JALT) Nagasaki Chapter meeting出島文化会館 (長崎県長崎市) 特別講義 講師
2008年 1月～現在に至る	長崎シーボルト大学 学生向け特別講義 講師
2009年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 325,000円 「科学研究費補助金若手研究 (B)」英語でのコミュニケーションを目的とする学習動機減退要因の質的・量的研究 (学習者動機付けに関連する研究) (研究代表者)
2010年 5月～現在に至る	読売新聞本社におけるEL Career and Professional Development Conference (ECAP) 2010において動機づけに関する英語教員向けワークショップ 担当
2010年 8月～現在に至る	University of Queensland, School of Languages&Cultural Studiesにて大学院生向け特別講演
2011年 3月～現在に至る	University of Hawaii at Manoa, Department of Second Language Studiesにおいて大学院生向け特別講演
2011年 7月～現在に至る	Japan Association of Language Teaching CUE conferenceにおいて学習動機減退要因に関しての招待講演
2012年 3月～現在に至る	University of Warwick, University of Exeterにおいて学習動機減退要因に関しての大学院生向け特別講演
2012年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 312,000円 「科学研究費補助金若手研究 (B)」L2セルフシステムを応用した英語学習動機を高める要因の質的・量的研究 (学習者動機付けに関連する研究) (研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 准教授	氏名 ジェームズ ウェルカー	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Girl Reading Girl in Japan	共著	2010年	(London: Routledge)	Tomoko Aoyama, Barbara Hartley	
論文					
Telling Her Story: Narrating a Japanese Lesbian Community (査読付)	単著	2010年	Journal of Lesbian Studies 14(4)		359-80頁

Transfiguring the Female: Women and Girls Engaging the Transnational in Late Twentieth Century Japan	単著	2010年			
Flower Tribes and Female Desire: Complicating Early Female Consumption of Male Homosexuality in <i>Shojo</i> Manga (査読付)	共著	2011年	Mechademia: An Annual Forum for Anime, Manga and the Graphic Arts 6		211-28頁
Translating Women's Liberation, Translating Women's Bodies in 1970s-1980s Japan	単著	2012年	Rim: Journal of the Asia-Pacific Women's Studies Association(城西国際大学ジェンダー・女性学研究所発行) 13(2)		xxxviii-xxxvi頁
倉田嘘『百合男子』に表された百合ファンダムの姿についての一考察	単著	2012年12月	ユリイカ(青土社) 46(15)		148-54頁
(Re)Positioning (Asian) Queer Studies	単著	2014年	GLQ: A Journal of Lesbian and Gay Studies 20(1-2)		181-98頁
その他					

Review, <i>Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre</i> , Antonia Levi, Mark McHarry, Dru Pagliossotti, eds. (MacFarland, 2010)	単著	2011年	Intersections: Gender and Sexuality in the Asia Pacific (27)		
Review, <i>Straight from the Heart: Gender, Intimacy, and the Cultural Production of Shōjo Manga</i> , by Jennifer S. Prough (University of Hawai'i Press, 2011)	単著	2012年	Asian Studies Review 36(4)		557-58頁
Review, <i>Homosexuality and Manliness in Postwar Japan</i> , by Jonathan D. Mackintosh (Routledge, 2010)	単著	2013年	Asian Studies Review 37(3)		400-402頁
Review, <i>Tokyo Cyberpunk</i> , by Steven T. Brown (Palgrave Macmillan, 2010)	単著	2013年	Journal of Asian Studies 72(2)		470-72頁
A Brief History of Gender and Sexual Minorities in Japan	単独	2014年 7月	Minority and Gender: US-Japan Dialogue on the Future; An International Symposium (with Stuart Gaffney, John Lewis, et al.)		

Whose Queer Media? An Examination of the Diverse Fandom of the Cross-Media Yuri Genre	単独	2014年11月	Manga Futures, Sixth International Scholarly Conference (Wollongong, Australia)		
Defining <i>Yuri</i> Manga Fandom in Japan: Women and Men Reading and Writing About Girl-Girl Romance Media	単独	2015年 1月	Manga and the Manga-esque: New Perspectives on a Global Culture, 15th Annual International Conference on Japanese Studies/the 6th Women's Manga Conference (Manila)		
Inclusion and Diversity among Fans of <i>Yuri</i> Media in Japan	単独	2015年 3月	Association for Asian Studies Annual Meeting (Chicago)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
2005年～現在に至る	Association for Asian Studies(国際学会) 会員
2005年12月～現在に至る	アジア研究学会 (Association for Asian Studies/AAS) 会員
2006年 5月～現在に至る	『Intersections:Gender and Sexuality in Asia and the Pacific』 査読委員
2008年11月～現在に至る	クィア学会 会員
2009年11月～現在に至る	『Asian Studies Review』 査読委員
2010年 9月～現在に至る	『Intersections:Gender and Sexuality in Asia and the Pacific』 国際諮問委員
2011年 7月～現在に至る	「Sex, Gender, and Society:Rethinking Modern Japanese Feminisms」 (於: エモリー大学、2013年4月19～20日) 大会実行委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 教授	氏名 金子 希巳江	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『大学・企業はグローバル人材をどのように育てるか』	共著	2012年 2月	(アスク出版)	本名信行、竹下裕子、ほか12名。	1-253頁
『異文化コミュニケーション事典』	共著	2013年 1月	(春風社)	石井敏、久米昭元、久保田真弓、ほか150名。担当箇所は特定不可。	1-617頁
『教室で英語落語』	単著	2013年 6月	(三省堂)		127頁
論文					

「日本人がおもしろいと感じる話の傾向：日本一おもしろい話プロジェクト（2010年4月～2011年3月）の結果と分析」	単著	2011年 7月	『笑い学研究第18号』		12-30頁
"Japanese Cultural Expressions Seen in English Rakugo Scripts"	単著	2011年 9月	Asian Englishes vol.14-1		46-64頁
「日本人英語の特徴とハワイ・クレオールとの類似点－日本人ビジネス・パーソンへのインタビューによるケース・スタディー」	単著	2012年 2月	『文京学院大学外国語学部紀要第11号』（文京学院大学総合研究所）		97-114頁
"An Examination for Styles of Japanese Humor: Japan's Funniest Story Project 2010 to 2011"	単著	2013年 9月	Intercultural Communication Studies, XXII (2)		1-24頁
Perception of Hafu or Mixed-race People in Japan: Group-session Studies Among Hafu Students at a Japanese University (査読付)	単著	2014年12月	Intercultural Communication Studies XXIII (3)		22-34頁
その他					

「Why Japanese are not funny? Funny stories instead of jokes in High-context society」	単著	2010年 6月	The 24th annual conference of International Society for Humor Studies, Hong Kong City University		
「異文化コミュニケーションとユーモア」	共著	2010年10月	第25回異文化コミュニケーション学会 (SIETAR) 文京学院大学、東京	安部剛、北爪佐知子	
「英語学習と多文化環境におけるユーモアの効用」	単著	2011年12月	第3回国際言語管理研究会 青山学院大学、東京		
「企業コミュニケーションとユーモア：大学と企業の対応」（パネルディスカッション）	共著	2012年12月	第31回日本「アジア英語」学会 文京学院大学、東京		
「人命および命名に見る意識構造の世界観」	単著	2013年 9月	第2回日・トルコ・ブルガリア共同研究会、アンカラ大学、アンカラ		
Japanese Traditional Views of Death: A Consideration of Classical Rakugo Stories	単著	2014年 6月	The 4th International Symposium on Comparative Culture at Kanagawa University		
Non-Narrative Art of Rakugo Tradition: Storytelling Consist in Conversation	単著	2014年 6月	Research Workshop of the Israel Science Foundation, Tel Aviv University		
Rakugo and English Humor	単著	2014年11月	The 6th International Symposium of Japan-EU Rese, Leuven University, Belgium		

Functions of Humor in Intercultural Communication: disarm, tolerance, and flexibility	単著	2014年12月	The 3rd Macao International Forum: New challenges for intercultural communication in Asia, Macao Po		
---	----	----------	---	--	--

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1996年 8月～現在に至る	International Society for Humor Studies 会員
1997年 4月～現在に至る	日本笑い学会 会員
1997年 7月～現在に至る	英語落語研究会 代表 英語落語プロデューサー兼英語落語家
2000年 4月～現在に至る	異文化コミュニケーション学会 (SIETAR) 会員
2001年 4月～現在に至る	日本笑い学会 関東支部運営委員/諮問委員
2002年 6月～現在に至る	Association for Intercultural Communication Studies 会員
2004年 4月～現在に至る	日本「アジア英語」学会 会員
2006年 4月～2011年 3月	NHKラジオ第二および国際放送局 Rakugo 紹介番組「World Interactive」キャスター
2006年 4月～現在に至る	文部科学省認可中学校英語教科書「New Crown」の編集および執筆委員
2007年 4月～2013年 3月	異文化コミュニケーション学会 広報委員長
2009年12月～2010年10月	異文化コミュニケーション学会 年次大会 大会委員長
2010年 1月～現在に至る	一般社団法人 日本英語交流連盟 特別参与
2012年 4月～2013年 3月	The Daily Yomiuri コラム記事 「Rakugo de Rekugo」連載
2012年 5月～現在に至る	NPOグローバル・ヒューマン・イノベーション協会 理事
2013年 4月～現在に至る	異文化コミュニケーション学会 会員関係プログラム委員長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任准教授	氏名 高木 南欧子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2000年 4月～現在に至る		神奈川大学英語英文学会 会員			
2000年 5月～現在に至る		社団法人日本語教育学会(国内学会)会員			

2005年 4月～現在に至る	個人研究 学部留学生の協同学習に関する研究
2005年 4月～現在に至る	個人研究 非対格性の仮説からみた動詞の分析
2006年 7月～現在に至る	社会言語科学会(国内学会)会員
2008年 7月～現在に至る	人工知能学会(国内学会)会員
2009年 1月～現在に至る	日本語教育方法研究会 会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 渡瀬 政造	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1987年12月～現在に至る		ドラマ「ハートカクテル」TV放送			
1988年 4月～現在に至る		NHK朝の連続テレビ小説「ノンちゃんの夢」タイトルイラスト担当			

1993年 4月～現在に至る	『社会福祉・医療事業人材募集』ポスターのイラスト作画
1993年 4月～現在に至る	『社会福祉・医療事業人材募集』ポスターのイラスト作画
1995年 4月～現在に至る	展覧会「色彩の旅人となって20年ーわたせせいぞうの世界展」朝日新聞社主催(大丸ミュージアム/東京他)
1996年10月～現在に至る	海外初個展 (CAST IRON GALLERY/ニューヨーク)
1998年 4月～現在に至る	わたせせいぞうイラストの原点アメリカ西海岸で展覧会「THE WORLD OF SEIZO WATASE-Loving' the American Wind and Waves of the 60' s」日米文化会館主催 (日米文化会館/ロスアンゼルス)
1998年 5月～現在に至る	アップルファーム・ギャラリー(世田谷区成城) 常設展と今日まで61回の企画展
1998年12月～現在に至る	帰国記念展「わたせせいぞうの世界展」朝日新聞社主催 (銀座三越/東京他)
2000年 5月～現在に至る	音楽をテーマにしたわたせワールド「わたせせいぞうの世界展ーHear The Wonderful Musicーボクたちのそばにはいつも音楽が流れていた・・・。」(伊勢丹相模原店)
2001年11月～現在に至る	『全国秋の火災予防運動』(消防庁)ポスターイラストに採用
2001年12月～現在に至る	「わたせせいぞうの世界展 21世紀へのRomanー自然に優しく抱かれてー」(大丸ミュージアム/東京他)
2002年 1月～現在に至る	「21世紀へのRomanー三都つれづれーわたせせいぞうの世界展ー東京・京都・鎌倉」を企画 (銀座三越/東京)
2002年 1月～現在に至る	「21世紀へのRomanー三都つれづれーわたせせいぞうの世界展ー東京・京都・鎌倉」を企画 (銀座三越/東京)
2002年 1月～現在に至る	「21世紀へのRomanー三都つれづれーわたせせいぞうの世界展ー東京・京都・鎌倉」を企画 (銀座三越/東京)
2002年 3月～現在に至る	『全国春の火災予防運動』(消防庁)ポスターイラストに採用
2002年 9月～現在に至る	「わたせせいぞう展 ハートカクテルから20年ー彩(いろ)と詩(うた)を伝える心の響きー」(横浜高島屋/横浜)
2002年10月～現在に至る	常設ギャラリー「わたせせいぞうと海のギャラリー」北九州市門司区門司港に開館
2002年11月～現在に至る	『全国秋の火災予防運動』(消防庁)ポスターイラストに採用
2003年 3月～現在に至る	『全国春の火災予防運動』(消防庁)ポスターイラストに採用
2003年 4月～現在に至る	ドコモiモード待受総合サイト「わたせせいぞう」開始
2003年12月～現在に至る	「わたせせいぞうの世界展ー花・FLOWER・華ー」他ジャンルのアーティスト、池坊次期家元池坊由紀氏、陶芸作家藤原郁三氏との初コラボレーション。朝日新聞社主催 (大丸ミュージアム/東京)
2004年12月～現在に至る	NHKテレビ『食彩浪漫』の「冬の夜長にハートフル鍋」に出演
2005年 5月～現在に至る	「わたせせいぞう展ーふたりだけのハイビスカスアイランドー」(銀座三越/東京)
2005年10月～現在に至る	『新北九州空港開港告知』ポスターイラストに採用
2006年 1月～現在に至る	「わたせせいぞうの世界展ーHow Romanticー」樹脂粘土作家川口紀子氏、ステンドグラス作家石戸谷準氏とのコラボレーション。(大丸ミュージアム/東京)
2006年12月～現在に至る	「わたせせいぞう展 SEIZO WATASE in X'mas」(小田急新宿本館/東京)
2007年 5月～現在に至る	『Netzトヨタ』広告イラスト作画
2007年 9月～現在に至る	ドコモiモードきせかえツール形態サイト「大人のきせかえわたせ」サービス開始
2007年12月～現在に至る	「わたせせいぞうの世界展ーオリジナルカレンダーーに見る20年の軌跡から」(銀座三越/東京)
2008年 3月～現在に至る	「わたせせいぞう展 めぐる季節の中でーふたりー」(伊勢丹府中店/東京)
2009年 2月～現在に至る	「おとこのロマンと色彩の旅 35周年記念 わたせせいぞうの世界展ーハートカクテルなところー」(大丸ミュージアム/東京)
2009年 6月～現在に至る	『東京シティ競馬』装飾・広告イラスト作画
2010年 8月～現在に至る	「わたせせいぞう展ー大人の夏休みー」(大丸/東京)

2010年12月～現在に至る

NHKテレビ『ドラクロワ』（毎週月曜日22時55分～23時25分）内の「援歌」というコーナーで、イラストが放映

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 坂井 久能	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
史料が語るエピソード 日本史100話	共著	2013年 3月	(小径社)	樋口州男編著	
論文					
「名誉の戦死」をめぐ って―神奈川県の場合―	単著	2011年 3月	『藤沢市史研究』(藤沢 市史編さん委員会) (44)		29-43頁
戦没者の慰霊碑・墓石 からみた戦争	単著	2011年 3月	神奈川総合高等学校研究 紀要・別冊		

軍隊と神社—神奈川の 管内神社等を中心とし て—	単著	2011年12月	神奈川地域史研究・神奈 川地域史研究会 (第29号)		14-46頁
靖国神社と白金海軍墓 地	単著	2013年 3月	招魂と慰霊の系譜—「靖 国」の思想を問う— (錦 正社)		
海軍の葬儀慰霊と靖国 神社	単著	2014年 3月	國學院大學研究開発推進 センター 研究紀要 (第8号)		
その他					
「海軍墓地とは何か」 ・公益財団法人水交会 定例講演会		2013年 4月	(東京都、東郷記念館内 水交会館)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1974年 4月～現在に至る		横須賀考古学会 会員 (近世・近代史部会)			
1988年 4月～現在に至る		神奈川県地域史研究会 会員			
1998年 7月～現在に至る		神道宗教学会 会員			
2009年 4月～現在に至る		國學院大学 慰霊と追悼研究会 会員			
2009年 4月～現在に至る		(財) 神奈川県高等学校教育会館 教育研究助成金 50,000円 (婦人相談所資料から見た戦後の女性問題) [研究代 表者] 坂井久能			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部	職名 特任准教授	氏名 佐藤 昇	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		なし			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部	職名 特任助教	氏名 野崎 まり	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『学ぼう！日本語中上級』準拠テスト集	単著	2010年	(横浜国際日本語学校)		
論文					
中国語母語話者の日本語の意見文に用いられる文末表現－日本語話者・中国語話者の日本語意見文及び中国語意見文を比較して－(査読付)	共著	2014年 3月	『神奈川大 言語研究』 (神奈川大学言語研究センター) (No. 36 2013)	野崎まり、岩崎裕久美	45~67頁

その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2009年 2月～現在に至る		横浜市緑区白山日本語の会にて日本語ボランティア活動			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 昆 政明	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『北前船と津軽西浜』	共著	2011年 3月	(青森県鯉ヶ沢町「北前 船と津軽西浜」)		1-10頁
論文					
「ドゲブネ(胴海船) をめぐる諸問題」	単著	2011年 3月	『青森県立郷土館調査研 究紀要』(青森県立郷土 館) (第35号)		65-80頁

「青森県の船絵馬」	単著	2012年 3月	『青森県立郷土館調査研究紀要』（青森県立郷土館） （第36号）		67-82頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1978年 4月～現在に至る		日本民具学会 会員			
2003年 4月～現在に至る		財団法人 青森市文化スポーツ振興公社 評議員			
2010年 9月～現在に至る		公益財団法人 みちのく北方漁船博物館財団 理事			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部国際文化交流学科	職名 特任教授	氏名 菊池 敏夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
民国期上海の百貨店と 都市文化	単著	2012年 2月	(研文出版)		314頁
近代上海的百貨公司与 都市文化	単著	2012年 4月	(上海人民出版社)		291頁
論文					
上海百貨店エリアの移 り変わり	単著	2010年 5月	財団法人地図情報センタ ー編『地図情報』 30巻(1号)		
建国前後の上海百貨公 司一以商業空間的廣告 爲中心	単著	2010年11月	上海市檔案館編『上海槽 案史料研究』 第9輯		

租界都市・上海における近代的都市空間の形成	単著	2012年 5月	歴史学会編『史潮』(新71号)		
その他					
書評『上海一多国籍都市の百年』(榎本泰子著、中公新書)	単著	2010年 5月	(榎本泰子著、中公新書)『東方』(第351号)		
口頭発表「民国期上海における四大百貨店の広告活動と都市の発展」	単著	2010年12月	AsianGlobalCulturalForumatHongKongUniversity		
書評『上海近代のホワイトカラー揺れる新中間層の形成』(岩間一弘著、研文出版)	単著	2012年 7月	(岩間一弘著、研文出版)『中国研究月報』第66巻(第7号)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1976年 4月～現在に至る		歴史学研究会(国内学会)会員			
1995年 4月～現在に至る		日本上海史研究会(国内学会)会員			
2004年 6月～現在に至る		現代中国学会(国内学会)会員			
2010年 4月～現在に至る		歴史学会(国内学会)会員			
2011年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 900,000円 「平成23年度 日本学術振興会科学研究費補助金 研究成果公開促進費」民国期上海の百貨店と都市文化 (研究代表者)			